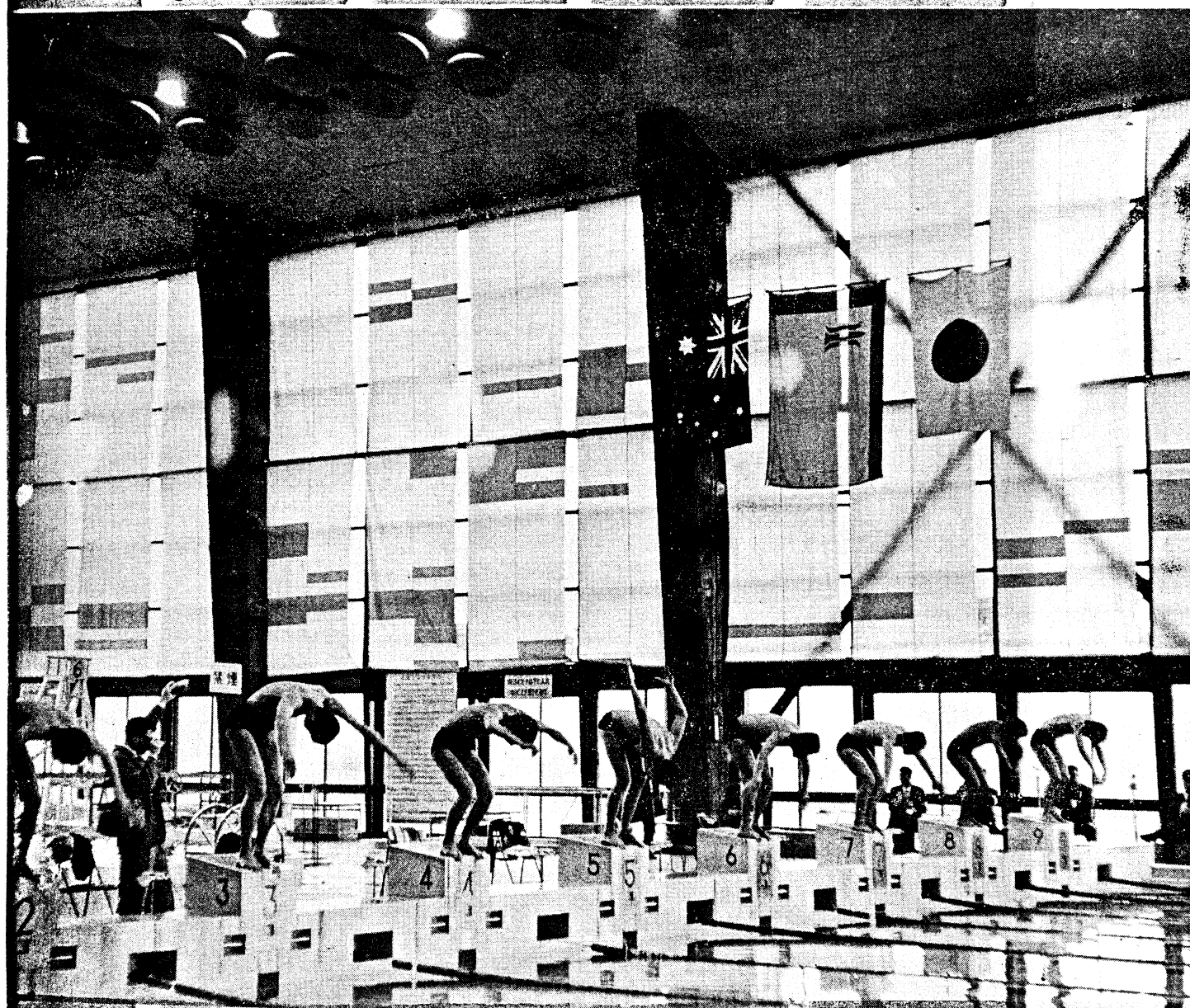
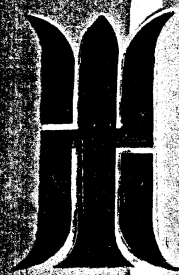


日本水泳連盟
機 関 誌

水 泳

第 1 3 9 号
昭 和 3 6 年 5 月



No. 139 "SUIEI" May 1961

NIPPON SUIEI RENMEI
(Amateur Swimming Federation of Japan)

昭和36年度主要行事日程表

3月4日(土) 5日(日)	日本泳法研究会	静岡・伊東温泉プール
4月1日(土) 2日(日)	第3回末弘記念日本室内選手権水上競技大会	東京・都営屋内プール
5月27日(土)～7月2日(日)	関東学生水球リーグ戦	東京・神宮プール
6月4日(日)	第33回早慶対抗水上競技大会	東京・神宮プール
6月11日(日)	第26回立・日・明三大学対抗水上競技大会	東京・神宮プール
6月18日(日)	第6回日大・中大対抗水上競技大会	東京・神宮プール
7月20日(木) 21日(金)	第34回関東学生選手権水上競技大会	東京・神宮プール
7月28日(金)～30日(日)	昭和36年度日本選手権水上競技大会	東京・神宮プール
8月6日(日)	第7回全日本中学校水泳通信競技大会	各地
8月上旬	地域別高等学校選手権水上競技大会	各地
8月14日(月)～16日(水)	第37回日本学生選手権水上競技大会	東京・神宮プール
8月中旬	第9回水泳教室	各地
8月14日(月)～20日(日)	国民皆泳週間	石川・金沢プール
8月18日(金)～20日(日)	第29回日本高等学校選手権水上競技大会	各地
8月20日(日)	第6回日本泳法競技大会	未定
8月23日(水)～25日(金)	第5回ジュニア水泳指導会	静岡・浜松プール
8月23日(水)	昭和36年度日本選手権シンクロ競技会	東京・目白プール
9月1日(金)～3日(日)	第12回全国勤労者水上競技大会中央大会	岡山・岡山プール
9月14日(木)～17日(日)	第16回国民体育大会水上競技大会	福島・若松プール

表紙写真は第3回室内選手権大会における男子800m自由形決勝のスタート、5コースが1着になったウィンドル選手。

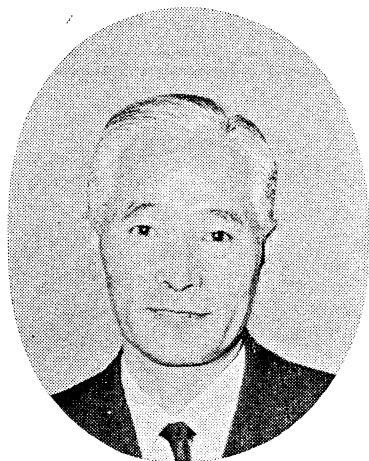
目

次

水連会長に就任して	高石勝男	(2)
東京大会のために	小池礼三	(5)
東京大会を目標とした地方強化対策について		(7)
水連便り		(11)
泳ぎ方に対する一つの考察	宮畑虎彦	(12)
進展するシンクロスイム	白山源三郎	(13)
Bulletin を読んで	原秀夫	(15)
千葉真一先生を囲む座談会 (その1)		(16)
サーキットトレーニングの所見	鈴木茂二郎	(20)
豪州選手を迎えた第3回室内選手権大会風景		(24)
日本競泳史上男子100傑 (8)		(27)
高石新会長を語る		(30)
女子水泳の前進のために	奥平幸夫	(31)
全国理事会議事録		(32)
昭和36年度定例代議員会議事録		(33)
臨時全国理事会議事録		(36)
在京代議員会兼全国理事会議事録		(37)
日本水泳連盟役員		(40)
日豪懇談会報告		(43)
海外ニュース	坂本宗隆	(45)

水連会長に就任して

高 石 勝 男



このたびはから
ずも日本水泳連盟
会長の重責を担う
こととなりました
が、あたかも東京
オリンピックを目
しように控えた極
めて重大な時期で
あるだけに、一層
深く責任の重大さ
を痛感致しますと

ともに、かえりみて自分の力の無さを憂えている次第でございます。私の今までの生活は、殆んど水に明け暮れたものでありまして、今後も恐らく生涯水と離れることのできない因縁につながるものと考えております。それだけに水の好きな点では、決して人後におちないつもりでおります。せめて、水泳に対する愛情の深さ、熱情の高さで力の不足を補ひ、あまねく水泳にご関係の方々に、寛容なご理解とご援助を賜りたいと、ちゆう心より念願しております。

かつてのように日本の水泳が旭日しよう天の勢いにあるときと違って幾分劣勢であります今日、しかもきびしい世界の情勢下にありますは、責任を感じれば感ずるほどますます私の立場が困難であることを知るのであります。

今後四年間われわれの前途は、けわしい茨の道でありましょう。しかしながら私は長い現役選手時代に、努力すれば必ず道が開けるといふ信念を、強く強く植付けられました。われわれ水泳人がともに苦しみ、ともに努力すれば、必ず我々の前に光明があると私は確信しております。われわれの苦しみが日本の水泳を活気づけるのであれば満足してその立場に飛び込もう。これが偽りのない私の心境であります。幸にも私と全く同じ考えの下に進んでこの難局に集って下さった役員の方々は無論のこと、お会いする水泳にご関係の方々が、すべて東京オリンピックを勝ち抜こうという意気

に燃えて下さっている御決意を拝して、私はただただ有難く存じております。

ご承知の通り、過去四十年にわたって世界の水泳界は極めて急速に進歩発展を遂げました。私はその殆んど最初から今日まで、身近にそれを見つめて参りました。大別致しますと最初の十年がアメリカの強かった時期であり、次が日本、そして約十年の空白時代を経て次に豪州、そして現在は……といえるのではないのでしょうか。その間にあって特筆されるものが三つあると思います。第一がロサンゼルスにおける日本チームの大勝、次に戦後の世界的混乱期から漸く世界の水泳が復活し初めたとき古橋、橋爪両選手の想像に絶するたくましい活躍と記録の向上であります。今日のように水泳の記録が高度化される先鞭をつけたのは、この両選手であることは世界中の人達が認めるところでありましょう。も一つはメルボルンにおける豪州チームの大勝、以上の三点でありましょう。

このように水泳日本が世界の水泳史上に残して来た足跡は誠に輝しいものでありまして、われわれの大きな誇りであるとともに反面われわれにとって重い重い負担となつていることも否めないと考えます。

、およそスポーツに志す者の最高の望みはオリンピックで覇権を握ることでありましょう。われわれにはこの最高の榮譽を二度連続かちとったのでありますが、それでもなお豪州の水泳関係者をうらやむ気持ちがするのは私だけでないと思います。

それは、彼等がこの榮譽を自国民の眼前でなし遂げたからでありまして、この大事業を完成したときの彼等の誇りは想像するだけでも羨望の感を禁じ得ません。しかしながらその大きな喜びもすべて長年にわたる彼等の努力と苦しみの結晶でありまして、私は彼等の勝利を称えるよりも、彼等がよく一致協力し全智全能をしぼって周到に計画し、激しい鍛錬に耐えた努力に心から頭を下げたいのであります。

事実豪州水連は、早くから10年計画をもって若い選手の育成に励み着々と成功への段階を歩み続け、最後にメルンボルンの大勝をかち取り、引き続きその余勢をかって、現在なおその地位を維持しております。東京オリンピック開催が決定してすでに3年を経た今日、われわれはなにをしたか、かえりみて誠にじくじたるものがあります。

東京オリンピックは、われわれの生涯に、恐らく二度とない世紀のオリンピックでありましょう。われわれは千載一遇の、この機会を逃してはならないと考えます。

3年前豪州選手を初めて我が国に迎えたとき、いたずらに豪州ブームにげん惑されていた日本の水泳界に、豪州の監督フィリップスが警告した言葉を私は極めて感銘深く聞いたのであります。彼は次のようにいい切っておりました。豪州は日本チームのロスアンゼルスの大勝に発奮し、それ以来日本を手本として努力を続けた結果、今日の強大さをかち得ることができた。したがって日本こそ豪州のお手本なんだから、いまさら日本が豪州から学ぶものはあり得ない。豪州が日本から採り入れたのは日本選手が行っている「ハード・トレーニング」だといっておりました。これは偽りのない言葉だと信じます。しかし私は必ずしもフィリップスのお説の通り、われわれが豪州から学ぶべきものがないとは考えません。まず第一に彼等が日本から取り入れた「苦しい練習」これをこんどは逆にわれわれが見習わなければならないと痛切に思うのであります。

「苦しい練習」豪州がそうであったようにこれこそわれわれが東京オリンピックを勝ちとる唯一の道であり今後四年間指導する者もされる者も総てが強く心の中に留めなければならない指針であると信じます。

豪州の代表的選手コンラッズが今から14年前、彼が5才で初めて豪州水泳界の第一線に躍り出たときの彼の練習振りを詳しく書いたものがあります。それによると彼はその前年のシーズンが終わったあと6月から8月までの3カ月間（日本の12月から2月に該当する）タルボット・コーチの指導の下にオフ・シーズンの練習にはいったその方法は米国のキップス氏の考案によるボディビル式トレーニングで、主として腕と足の筋肉を強める練

習だったようであります。例えば腕立伏せを1時間、腕振り350回、膝の屈伸500回などで極めて激しいトレーニングであって、こうして身体を鍛え9月から水にはいる（9月は日本の3月に当る）9月中の1カ月は長距離を主とした練習を行った。毎朝5時に起床して学校に行く前に毎日4～5哩泳いだとあるから、それだけで7～8000m泳いでいる。したがって午後の練習を加えると恐らく1日の延べ距離は1万から1万数千mになったであろうと思われる。

1カ月間こうした基礎的な練習をしたあと、10月からインターバル練習をはじめた。最初の日が440ヤードを5分おきに10回、次の日が880ヤードを10分おきに5回、次の日が220ヤードを3分おきに15回、そのほか毎日1哩のピーティングを行う。こうした練習を12月はじめまで1日も休むことなく繰り返した。以上であります。なかなか容易でない練習量でありまして、恐らくこれが現在行われている豪州の若い選手達の練習の方法を示すものと考えます。ただし練習というものは長距離であろうとインターバルであろうと、常に自分の手足を苦しめるものでなければなんの効果もありません。苦しい練習をしてこそ苦しみに耐える力が身につくのでありまして、歯をくいしばって苦しさに耐えて泳ぐとより強い苦しきにも耐えられる力が養われます。

これが練習上最も大切なポイントでありまして、苦しみを感ぜない練習は殆んど効果もありません。さきごろ私が会長に選ばれたとき神戸在住のパナマ国総領事ナポレオン・フランコ氏から町重な激励の手紙が送られました。同氏は中米水連の前会長であり、かって平泳選手として相当に活躍された方のようにあります。その手紙の中の一文を紹介しましょう。

アメリカでは毎年1回フロリダ州のフォート・ラウンダデルで「北米水泳コーチの年次大会」を開いて水泳技術の研究会を催している。フランコ氏も毎年これに特別の来賓として参加した。

たまたま彼が出席した1948年の研究会では、ロサンゼルスで大活躍した古橋君はじめ日本の選手が研究の対象としてとりあげられた。殆んどのコーチは日本人の泳法をまねるべきだと決定したときにイリノイ大学のトーマス・キューアトン教授

(有名なスポーツ科学者で招かれて日本へ来たことがある)は日本の泳法はまねるべきでないが、コーチ諸君がなすべきことはあなた方の選手に猛訓練をして日本人のような偉大なる耐久力(疲労に耐える力)と速いスピードをつくることである。日本の選手が苦行者的な観念を水泳に対して持っていることを念頭において、われわれのボーイスを訓練すべきである、と説いて集ったコーチの人達に深い感銘を与え、賛成された。と書かれてありました。苦行者的観念とは恐らく行者が難行苦行に耐える気持ちを表現したものだと思えます。

今やわが国ではスポーツ科学が万能的に採り入れられているときにわが国が、わざわざ招いたほどの有名なスポーツ科学者がスポーツ科学を超越して行者の行をする気持ちで猛訓練をせよと説いたところを深く注目したいと考えます。

かくしてアメリカでもボーイスに猛練習をさせている。豪州でもしかり、その時に我々は中学生の競技会出場上の制約あるいは6月のオリンピック会期に備えるための室内プールの不足など、東京オリンピックをかちとりたいわれわれの前には色々と困難な大きな問題が多いのでありますが、われわれはそれらの困難に身をもってぶっかって打開の途を講じ、あくまでも忍耐強く前進したいものと存じます。

今度新しく選手の強化対策として強化本部が組織され、また多くの人達の積極的な協力によりまして、強力なコーチング・スタッフを持つ強化委員会が本部、各ブロック及各加盟団体にも組織されまして近く活動をはじめの段階に至りましたことは非常なよろこびでありまして、この全国に行きわたる選手強化の大きな組織が、お互に親密な連繋のもとに活発な活動を始めれば必ず大きな成果があがると確信致します。現在の日本の水泳の実状を、北は北海道から南は鹿児島に至る五十有余の加盟団体について静かに頭の中にえがきながらだどって見ますとき、かって広い底辺の上に立つ高いピークを誇った当時と、余りに変った姿に淋しさを感じるのであります。時に静岡、京都、岡山、広島、香川、高知など続々と名選手を産み出された加盟団体の方々に、一日も早く往時の熱意を取り戻し、昔を今にして頂きたいと切に願うのであります。

各加盟団体が東京大会に少くとも一人の代表選手を送りあげて頂いたら、それだけでも立派なチームができてきます。ここで特に加盟団体の方々にお願い申し上げ度いのは、選手育成の第一線は常に選手の側近にあって熱心に指導されている中学あるいは高校の諸先生方であることをよく認識されて、第一線の指導者に積極的なご援助なり指導のし易い方法を講じ、またそうした指導者の数を極力ふやすよう凡ゆる手段を以てご努力して頂きたい点であります。選手の産れる処には必ず熱心な指導者があって、己れをかえりみないで指導に専念されている事実は御承知の通りでありまして、選手の身近にいる指導者があってはじめて選手が育つという因果関係は、いつまでも「不変のもの」と考えます。戦前数多くの選手を造りあげた処には水泳気狂いと云われた先生が必ずそこにいた実績は、申上げるまでもなくご承知の通りであります。改めてそのことをもう一度思い出して頂き度いのであります。栄枯盛衰は水泳界にも数々見られます。国についても、一つの学校を単位にしても避けられないものであります。一つの学校が栄え、そこから年々立派な選手が上級に進み、やがて社会に出て郷里にも帰ります。有名だった学校には多数のいわゆるO・Bが出来る。そしてそれ等O・Bの人達が母校の面倒を見はじめると、常識的にはより指導力が強化されると考えられますが、私はそれが凋落の第一歩であると考えますし、その事実を何回となく見て来ました。なる程O・Bの指導は結構ですが、先生のように年中選手の側近に居られない立場にあるということが、致命的な欠陥であるからです。O・Bが来ると、先生の方がO・Bに任せて第一線から去ってしまうからです。こうした点も大いに心すべきものと考えます。

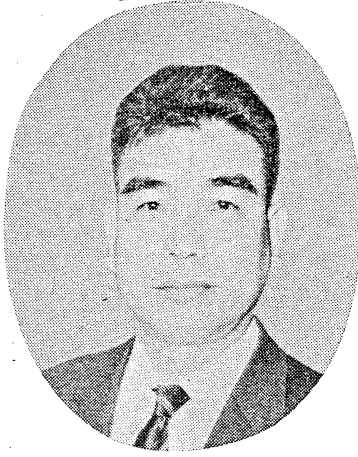
色々申し上げましたが本部に居ります私共も、各加盟団体が活動される上に必要があれば、それをご援助することに出来得るかぎりの努力をするつもりであります。

要するに本部といわず加盟団体といわず、少くとも水泳に関係を有する者一同が東京オリンピック目指して、総ての力をその一点に結集することができれば、米豪といえども決して恐れる必要はないと確信するのであります。最後に重ねて関係各位の絶大な御協力をお願いしご健康を祈ります

(筆者は本連盟会長)

東京大会のために

小池 礼三



高石さんに代表されて芽を出した戦前の日本の水泳は第10回ロサンゼルスオリンピックと第11回ベルリンオリンピック大会にわたって見事な花を咲かせた。これに反し戦後、古橋君によってス

タートした日本の水泳は、古橋君の活躍が当時、失意のどん底にあった日本人に勇気を与えた大きな意義は別として、ついに過去3回のオリンピックでは成功することが出来なかった。即ち1952年ヘルシンキ大会は白夜のオリンピックで、しかも日本は戦後の疲弊がまだいえ切らない時で、加えて頼みとする古橋君は復調出来ず、辛ろうじて鈴木100m自由形2位、橋爪1500m自由形2位、800mリレー2位と3個の銀メダルだけに甘んじなければならなかった。

メルボルンとローマの教訓

当時、戦前の成績から推して期待が非常に大きかっただけに失望、非難もまた多かったようだが、これは戦争による影響や、それから来るところの思想の傾向、学制の変革、諸外国の水泳に対する熱の入れ方など、あらゆることを総合的に判断すると、あの程度の結果しか出て来なかったのではなかろうか。続く1956年、メルボルンオリンピックは、これも南半球で12月という日本のオフシーズンに当る時期に行われ、この意味ではヘルシンキ、メルボルン両大会は日本の水泳にとって変則的であったことは間違いない。それでもメルボルンでは、ヘルシンキ以上の成績を挙げるべく意気込んだのであるが、この時も古川の200m平泳で金メダルと、山中の400m、1500m自由形2位、石本の200mバタフライ2位と、吉村の200

m平泳2位と4個の銀メダルを獲得するにとどまった。この時は日本が弱かったというより、むしろ力量ともに日、米を遙かに上回る豪州の自国オリンピックにかけた意欲と準備の完べきさに敬意を表すべきだろう。

続く1960年のローマ大会は、日本にとっては一番まともなオリンピックで、その成功の度合いも戦後で最も濃厚な気配だったが、結果は山中、大崎の不成功がそのままひびいて、意外にも今まで一番悪い結果を招いたのであるが、これは調子や山のあて方などの失敗は確かだが、それも結果論で担当者としては、日本を出るとき以上の力の発揮を望んだために、あの日程を組んだのであろう。いずれにしても三度目の正直も空しく、残された道は東京オリンピックで、国民の前で日本の水泳の現実を見てもらうわけだが、東京オリンピックも異常な雰囲気で行われるだろう。しかし出て来る結果に対しては、何もいまさら心配する気持は少しもないが、ただそれまでになさなければならぬ強化の計画、実施が思うにまかせるか、どうかは頭痛のタネである。

上位の入賞者は18才台

水泳の場合、強化の対象はいままでの実績からも医学的な面からも、他の競技よりも若い年齢層に向けられなければならない。その意味で最近、中学生の対外試合の制限に関する文部次官通達に対し、緩和の処置が云々されていることは、もし水泳が特例でもよいから、実現してもらえれば誠に喜ばしいことである。水泳が若い層に適しているという、医学的見地は他にゆずるとして、過去の事績をオリンピックに例をとると、ロスアンゼルスの上位入賞者の平均年齢が満で18才台。メルボルンもこれと同じである。このなかには鶴田さんのように例外はあるが、当時は100m自由形優勝の宮崎が満15才。1500m優勝の北村が満14才。その他牧野、遊佐、小池、石原田などいずれも16~18才までであった。この時はいくらか若かすぎ

た嫌いもあったが、水泳の場合、その最高は18才から20才であるから、その年令に達する期間を3年から4年と計算すると、どうしても14才ぐらい、少なくとも中学、高校にあって全日本のランキングのなかに、素質ある選手がかなりの人数で、顔を出していなければならないのである。またオリンピックのような大試合に出すには、その選手のトップをぶつけることが出来れば、それに越したことはないが、その次ぎには八合目ぐらいのところをぶつけるとする。その八合目には上りもあれば、下り八合目もあるから上り八合目の場合は、尻上がりの成績になるが、下り八合目は尻つぼみの結果になることが多い。

中学生からも選びたい

この意味でも東京オリンピックには、どうしても代表選手を大学の低学年以下高校生、特例的には中学生ぐらいのところから選べるようにしたいものである。それにはどうしても東京大会用の強化の対象は、今年に例をとれば、中学生から高校生の低学年ということにならざるを得ないのである。中学生に関しては教育的な面で、種々問題あることは充分理解出来るが、水泳の場合は、その特殊性を特に御理解願って、何んとか中学生の対外試合の自由化をお願いしたいものである。この場合、関係者間に感情的なものが残って、制限がとれたとしても、積極的な支援がない限り、効果は挙らないと思う。名を取って実を捨てたということのないようくれぐれもお願ひ致したい。もし中学校のなかに昔の浜松一中、見付中学、安房一中、中京商業、修道中学、高知商業など名門校が出来るとしたなら、それ自身が東京オリンピックに通じる大きな力となり得るのである。

強化委と連繫巡回指導

今年東京オリンピックのための強化の第1年目であるから、全国8ブロックの強化委員会と連携のうえ、中央で各種目を包含した班を編成して、シーズン初めから7月までの間に全国的に氣勢をあげる意味も含めて、一班が約20日間ぐらいを巡回指導に回る予定である。

競技会は大きな練習場

競技会それ自身が、一つの大きな練習にもなり得るわけである。今年4月の室内選手権に豪州の選手を5名招いて、目で見る練習をしたわけだが、これらの選手は現在15、6才で東京大会を目指すものとして、日本のその年令層よりずっと高いレベルにあるわけで、その点は日本も少なくとも来年ぐらいまでに、今の豪州の選手に匹敵するぐらいの、素質ある選手を数多く持ちたいものである。7月の日本選手権には、アメリカから選手を招く計画もあり、最近のアメリカは豪州を上回る力を持っており、これらの選手と交流することも有意義なことと思う。このほかには高校生の海外遠征計画もあり、また第1線の大学選手は国際学生大会に競泳、水球ともに遠征することになっている。シーズン中は各種競技会のスケジュールがギッシリつまっているのだから、この期間は練習の効果を見るということになり、それによってそれ以降の強化の案を練るということになると思う。

改むべき合宿の考え方

いままでは強化といえば、合宿練習ときまっていたようだが、これからの合宿練習はその期間に強化をするということだけでなく、それまでに行われてきた強化の成果を検討するという方向をもってゆきたいと思っている。合宿練習は競技会前のものであって、ある短期間の合宿練習によって強化の実をあげようとするような、従来の考えは改めなければならない（但し豪州のようにシーズンオフ中、オリンピックのために長期間行った合宿練習もあるが、これなどは特例的で日本でもオリンピック前には、このようなことも考えられる）。

水泳シーズンが終った時に、はじめて強北の本当の仕事が始まるのではなからうか。ボートがよりよい艇を求めると同時に、水泳も最も水泳に適したスイミングボディービルが、従来のフィジカルトレーニングが、あるいは最近の水泳に適したサーキットトレーニングによるものは、いずれにしてもなされなければならない。水泳にはどうしても人より優れた心臓、肺臓を要求し、また筋肉の鍛錬も必要であり、腹筋の運動によって内臓を丈夫にして胃腸障害を防ぐことも必要である。これらのトレーニングは非常に地味で、根気を必要と
(以下10頁へ続く)

東京大会を目標とした地方強化対策について

＝東北ブロック＝

岩手水泳協会理事長 瀬川政雄
東北ブロック強化委員長

3年後に迎える世紀の東京オリンピックを控え強化本部の設置と共に多年の冬眠から覚めたように東北水泳界も活況を帯びてきた。殊に今秋9月は東北最初の国体夏季大会を会津若松市に迎えるので拍車をかけられる情勢である。既に集まった東北各県の強化計画のうち秋田県、新潟県、岩手県のものをも参考に掲げると次の通りになる。

▷秋田県

強化委員会——委員長（理事長）——委員 5人

（一般 1人）
（高校 2人）
（中学 1人）——指導員 20人（中学 10人）
（高校 10人）

強化計画

第1次 3月22日～26日間対象

指導員 選手（温水プール）

第2次 5月5日～7日（3日間）対象 選手

第3次 8月7日～12日（6日間） ”

▷新潟水連

(1) 強化組織 強化委員長 奥村健治（理事長）
委員 上越地区4名、柏崎地区4名、中越地区4名、下越地区4名、佐藤地区（2名）

(2) 強化方針

昭和39年度の東京オリンピックを最高目標とし併せて此の年の国体が新潟県で開催されるが、これを最高目標とし現在の中学生及高校生の強化を主眼とし、次いで青年団及小学生の指導育成に努力する。

(3) 強化対策

- a 日本水連及び県より強化費が出ると思われるので出来るだけ多く合宿練習を行う、但し県が広いので会場は3ヶ所位で行う
- b 昨年に引きつづき八月中に大選手を招き巡回指導を行う
- c シーズン初め、及びシーズン終了後、上組小学校（温水プール）を借りて合宿及合同練習を行う

d 各地区毎に水泳バッチテスト（小、中高生）を行い普及に努力する

e 各地区毎に合同練習会及記録会を年に数回行う

f 学童水泳大会を一層盛大に挙げる

g 温泉プールの促進に一層努力する。中小校えプール建設をPRする

h 8ミリ映画を利用してフォームの矯正に努力する

i 強化委員会をしばしば開催し研究してゆく

▷岩手水泳協会

強化委員長（理事長）——

委員 { 県教委 1 盛岡、釜石、宮古、県北
高体連 2 中部、県南、大船渡
中体連 1
協会 3 7地区に分けて指導する

強化計画

3月22～28日 選手、指導員強化合宿
（志戸平温泉プール）

6月中旬 3日間 選手強化（巡回指導）

7月下旬 5日間 選手強化合宿
（花巻温泉プール）

37年1月7～13日 選手強化合宿
（釜石製鉄プール温水）

×

×

当協会としては昭和25年10月花巻市志戸平に温泉プール（25m）を造り爾来毎年1月に冬季の東北水泳大会を開催してきたが、第6回から会場を釜石製鉄所プール（温水）に移して今年の1月15日は第11回大会を行った。しかも大会の前1週間は水連から講師を招いて強化合宿をつづけてきたのが今日非常に選手強化に役立っている。しかもこの大会で強化された東北の高校選手が2～3年前から釜石製鉄所水泳部に数名宛採用されているので之も選手達にとって好刺戟になっている。

当地方で中学生対象の競泳大会は通信競技大会一本であり、中学選手の水泳への意欲を高めるため私は

(1) 高校地方ブロック選手権の際各県より1種目1名位の中学選手を集め高校決勝レースの直前に決勝レースを行う

(2)通信競技大会の成績により該ブロック内の5傑表を作り、朝日紙各県版に之を掲載する。之は大会翌々日頃の紙面で差支えない

(3)中学選手のリーダーとなるべき先生の強化も行って選手の指導強化に当って頂く

等が必要と思っている。東京オリンピックに活躍する選手は大体现在の中学1年から高校3年生以内のものが主力と考えられるので、特にこの部面に力を注ぎ、今年は選手の開発に努力せねばなるまい。地方にいる高校又は上級中学選手でも或場合は大学選手の合宿シーズンの或る期間入れて、これが強化をはかるなども一応考えられる事である。アウトシーズンの体力強化を如何にするかは可成り大きい問題であり、私の指導下にある高校2年女子選手で冬はスキー選手として活躍しているものがあり、この選手は昨年3月の志戸平における強化合宿で200平泳に3分37秒1(25mプール)だったのが、昨年8月には3分21秒まで躍進し、水泳とスキーの両立を証拠立てて呉れた。此の冬は岩手代表として国体リレーで5位入賞しているので、今夏の平泳がどこまで伸びるか、私は非常に関心を持っている。昨年3月の志戸平に於いて1週間の強化合宿(コーチ芦田拓郎氏)は可成り成功を取めたと思はれるうえに参加した選手で昨年の中高校全国20傑に入った選手が4名に達したが、3月の強化合宿の際3月31日行った記録会のタイムとシーズン中に出した最高記録を示すと左の通りで頗る進歩を遂げた事が分る。

3.31記録会 昨夏最高

花輪 生雄 (山形南校2年)	200平泳 2:59.6(短) 2:47.6(長水路)
島岡 義二 (柏崎一中2年)	100背泳 1:20.6(短) 1:18.5(長水路)
高橋 清子 (花巻谷村学院高2年)	100バタ 1:37.0 1:23.8(短水路)
島山 重子 (花巻湯口中2年)	400自 6:42.8 6:37.9(長水路)

＝近畿ブロック＝

近畿ブロック強化委員長 奥田精一郎

愈々3年先に東京オリンピック大会を迎える事になり、一等国に復帰するの資格を万国より与えられた此の機会に、日本国民の主権国たる責任と

成果を意義深く念頭に置いて、終了後色々な意味においての後悔が無い様万然の努力が必要とされるに至りました。

我々水泳愛好者の強化対策の第一条件として、本年度中に強力な地方ブロックの中心に宿泊所付の室内プールを建設して、シーズンオフという言葉もなく年間を通して、見出された素質ある選手の養成にあたらねばなりません。

言葉の上での強化よりも、先づ其の施設を造る事が先決問題である事は誰れしも同感であります。従って国営、もしくは府県営の官民一致団結した人の和による施設を持つ事により、強化の第一条件が満され関係者もぼやぼやしておれない状態に置かれる事になり、其の成果も期せずして明瞭に表はれる事を確信致しております。

官民一致協力が東京オリンピック大会の成績を左右すると云っても過言でないと思います。

今迄の実例から致しますと、オーソドックス泳法でない優秀選手がシーズンオフにより呼吸を度忘れし、折角其のシーズンに相当な記録を作り乍ら、来シーズンには気の毒な状態になった事が多々ありますので、費用の点に関しましては、本部が諸関係と話し合いして戴き、是が非でも年間専念して訓練に当る事が出来る様、第一条件を今年中に可能ならしめる諸計画をお願い致す次第で御座います。

我々近畿ブロックにおきましても、奈良県の天理プールに各府県が申し入れして、オフシーズンの強化に当らねばなりませんので、その計画時に色々苦勞した割に成果が挙らなかった事も過去の実績には沢山ある為、贅沢な施設の要望ではなく真に選手養成を本意とした室内プールの建設が強化対策に必要なかくべからざる条件になっております。

施設を持つ事により真の水泳愛好者の父兄は自費により我が子弟を訓練に通はせる事の例も出来る事であり、其の中より優秀な素質ある選手を発見する事が出来るかも知れませんので、沢山の要望よりも第一条件が可能ならしめる様、地方においても其の計画を直ちに研究する事が、3年先の此の民族の祭典の水泳部門において、世界を制覇する事も可能と信じ、強化に献身努力致すものであります。

＝中国ブロック＝

中国ブロック
強化委員長 鎌田 寿夫

新しい革袋には新しい酒が盛られなければならない。過去の栄光に示される可能性の高さは、新しい決意と強力な組織とを要求している。襟を正して現実に直面しつつ、ひたすらに飛躍を祈念して中国ブロックの強化委員会を結成する。

1. 委員会規約

- (1) 本会は東京オリンピック強化対策中国ブロック水泳強化委員会と称し、事務所を広島県尾道市久保町498 小山豊郎方に置く。
- (2) 本会は中国5県の各県水泳強化委員会の代表及び学識経験者をもって組織し是を統轄する。
- (3) 本会の方針並に目的は次の通りとする。
日本水泳連盟強化対策本部の方針に即り、管下選手の発掘、育成、指導者の研究調査等に最大の努力を尽す。
- (4) 本会に別紙の通り役員委員を置く。
- (5) 役員任期は東京オリンピック終了までとする。
- (6) 本会の経費は補助金、寄附金をもって充てる。
- (7) 会計年度は4月1日より3月末日までとする。

2. 委員会、役員

会長 林 興一郎(中国五県水泳連盟連合会長)

副会長 中国五県各県水泳連盟会長

顧問 藤田 明 望月 明

委員長 鎌田 寿夫

副委員長 各県強化委員長

佐竹 孝(広島) 山崎忠志(岡山)

宮脇通明(鳥取) 渡辺 博(山口)

袖本 (島根)

競泳委員会 主任 佐竹 孝

副主任 末広 力

水球委員会 主任 大沢 晋

副主任 水津礼二郎

飛込委員会 主任 山崎 忠志

副主任 山田謙二郎

スポーツ科学
委員会 主任 種田 豪
副主任

高体連委員会 主任 宮脇 通明

副主任 藤本 正三

中体連委員会 主任 岡 巖

副主任 井上 哲良

小学校委員会 主任 瓦家善四郎

副主任 中村 憲治

実業団委員会 主任 村尾 正亀

副主任

施設委員会 主任 渡辺 治包

副主任 三橋 孝行

学識経験者 各県水泳連盟理事長、各県高

体連水泳委員長、河野隼人、

西田正四郎、青山雄三、畝川

澄枝

総務 小林 豊郎

3. 35. 36年度事業計画

(1) 昭和35年3月24日～30日

各県単位強化合宿(各々約50名)

島根県(浜田) 山口県(内牧) 鳥取県(浜村)

広島県(尾道) 岡山県(倉敷)

(2) 36年4月2日～5日

中国強化合宿(約50名) 各県より選抜、倉敷

(3) 5月7日～9日 指導者研究講習会(約50名) 各県選抜 岡山

(4) 5月13～14日, 5月21～22日, 5月27～28日

各地域別合同練習並に指導者研究会 各地

(5) 6月28日～7月1日

中国強化合宿(約70名)(水球を含む) 津山

(6) 8月3～7日

津山中国強化合宿(約70名)(水球を含む)

鳥取 高校選手主体

(7) 8月28～31日

各県高校強化合宿(各々約50名)(水球を含む) 各県

(8) 12月24～30日

中国強化合宿並に指導者研修会(約50名)

山口県湯本

(9) 37年1月4～7日

中国強化合宿並に指導者研修会(約50名)

山口県湯本

(10) 3月24～30日

各県単位強化合宿(各々約50名) 各県

“すべては東京大会へ”

全国の与望をになって高石勝男氏が水連の会長となられた。とにかく東京大会を勝抜くためには高石先輩をおいて他に適任者がある筈はない。すべては東京大会のため水連が一本となり、総力を傾け新会長を盛りたて、われわれの生涯に二度とないであろう東京オリンピックをして勝利の栄冠を獲ちとらなければならない。

数年前一応水連の中心から去られたいわゆる実力者の人達も夫々執行部の重要なポストに就かれ中央地方を通じ文字通り挙国一致体制を確立したことはまことに喜ばしいことである。これらの人々が夫々のポストや役割を通じ強力かつ建設的な意見を打出されこれが力強い行動と躍進の軸となり「水泳日本」を再現しうることを切望するものであるが、それには大世帯とにかく欠き勝なチーム・ワークを一層緊密にし折角の新発足を無にすることのないよう努めて頂きたい。

その意味で強化本部も新たな体制のもと有能な若手陣を加えて発足したが、問題はその計画なり指導の実際を通じ今後地方強化組織乃至地方第一線の指導者の方々とどのように融合、調整され更に「優秀な新人～若芽」をどのように育て申し得られるか、困難な事業ではあるが期待は大きいものがある。もとより予算上の制約や種々な障がいもあることであろうが、時機を誤らず適切な強化策を積極果敢に遂行する要がある。私見ではあるが、この場合単に予算があるからというだけで画一的、機械的な強化対策～強化費配付ということではもち論なく、場合によっては重点的な集中施策を敢て行うことも当然考えられようが、これらのことは3年半という限られた制約のなかで計画し実行に移すものだけに容易なことではあるまい。しかし矢は弦を放たれたのである。実行計画の策定には十分論議することは必要であるが、決定をみた計画は逡巡することなく実行に移して頂きたい。

水連は終戦以来幾多の困難に際会してきたが、関係者を初め古橋君や山中君等を頂点とした若手

の諸君の努力によりともかく今日の水連の名声を保持してきている。しかしながら何と云っても地方の有望な若い諸君に希望と光明を与えそれらの諸君の活躍がなければ水泳日本の再現はできないことは自明である。多年の懸案であった中学生の県外試合禁止問題については、就任以来会長初め新スタッフの熱心な努力と働きかけにより事態は好転のきざしが見えてきたことは何と云ってもまたとない朗報である。今や客観状況は単に教学に関する教育上の影響を論ずる段階にはないのであつて、健全なるべきスポーツの振興こそ萎靡沈滞した青少年に希望と明るさを与えることは今更喋々する要はないであろう。

この意味で先般開かれた高石会長 就任激励会の席上石田博英氏の祝辞中「制限解除乃至緩和を行うことは、子供にオリンピックの夢を持たせることに役立つことでこそあれ反対する何らの理由はないではないか」と端的にその意向を述べられたことは同氏が政府の要職におられるといなとに拘わらずわれわれの気持を卒直に披瀝されたものとして感銘が深いものがあった。(プールサイド)

(6頁より続く)

するものであるから、これには各地にまとまりやすい単位を作り、そのリーダーによって、この種トレーニングが継続的に行われるような、合同練習を全面的に持ちたいとも考えている。またこの間に水泳練習をコンバインドすることの良し悪しというか、地上トレーニングだけを継続している場合の弊害はどうかも研究したいと思っている。

もう一つほしいプール

何んといっても東京大会までに、あと3年半しかない。1年を2シーズンにして使うには、どうしても室内プールの利用ということになるが、現在東京では都の室内プールだけが、設備の点で利用できるが、これも都民の利用の合い間を見て、借用願える程度ではなんとも心細い限りだ。出来るならば東京にもう一つ練習専用の室温、水温、調節可能なプールを作っていたらきたいものである。欲をいえば大阪、名古屋、福岡、広島などの主要都市にも欲しいものである。

(筆者は本連盟強化対策本部長)

水 連 便 り

“東京オリンピック強化計画方針決る”

さきに水泳連盟に設置された水連強化対策本部（本部長小池礼三氏）は、先般来より着々その体制の整備を図り、活潑な動きを示してきたが、去る3月31日開かれた第2回本部総会において、本年度以降東京オリンピック前年度までの強化方針を検討協議した結果、次のとおりの方針を決めた。すなわち

昭和36年度 有望選手の発掘に重点を指向する。

〳 37年度 有望選手の発掘と併行して準英才教育を行う。

〳 38年度 英才教育を行う。

〳 39年度 東京オリンピック大会。

なお、強化対象は中学3年生を最低線に置くが中学1・2年生であっても有望なものは対象において行うこととする。なお36年度の強化予算（詳細は本誌議事録参照）は体協補助金及び財務委員会募金分を含める3,000万円の財源収入に対し、支出は競技、水球、飛込、巡回指導、ジュニア対策、地方強化費を含め総計2,800万円が予定されている。

“強化競泳コーチングスタッフ決る”

強化対策本部の強化競泳委員会においては、発足以来田口強化委員長が中心になり、連日にわたり強化計画の細目、泳法技術の確立など事項別、専門泳法別に研究会を開き、活潑な意見の交換を行っていたが、去る3月16日の常務理事会において、田口委員長より競泳関係の中央常任委員が次のとおり発表された。

委員長 田口正治

副委員長 小柳清志

自由形コーチングスタッフ 鈴木 弘, 北村康雄,

谷 訥, 清水健, 下村正, 山中毅, 野々下耕嗣,

山下勝次, 橋爪四郎

平泳コーチングスタッフ 平山綿保, 太田 勝,

豊池 守, 増田 勲

バタフライコーチングスタッフ 長沢二郎, 藤家衛,

石本 隆

背泳コーチングスタッフ 芦田拓郎, 倉橋範彦,

二宮英雄, 長谷景治, 上村 稔

シード校監督 村上勝芳, 南住恵, 竹林寺文雄,

山田芳美, 鈴木茂二郎, 福山信義

中体連 金田平八郎

高体連 菊地 章

注：地方の分は追って発表される予定である。

“高校生のアメリカ派遣決定”

かねてから高石会長が熱心に主張たれていた高校生のアメリカ派遣は、先般来より水連強化本部において時期、予算など具体的問題につき検討していたが、4月1日（土）開催された在京代議員会兼全国理事会の席上小池強化本部長より8月17日より3日間開催される全米戸外選手権に高校生を参加させたい旨発表があった。もちろん本計画は水連が本年初頭体協の指示に基き提出した36年度海外派遣計画（強化計画の一環）外のものであり、従って予算的にはその枠内になるか別個の予算措置を講ずるかは未定ではあるが、東京大会にはこれら高校生を主体とした英才が日本チームの主力となることは明かである以上、アメリカの檜舞台で勉強できることは大きなプラスを齎すものとして多大の期待がかけられている。

“前会長等辞任さる”

1月31日の全国代議員会において満場一致をもつて、高石新会長が選任されたが、これに伴い樋口、小出、志村の三氏は水連執行部から去られた。長い間本当に御苦労様でした。しかし三氏は夫々顧問評議員として水連に残られ側面的に今後の水連に協力されることになった。これらの方々はこの4年間多難な時期を水連に献身されて大世帯を切り廻してこれらたことはまことに感激に堪えない。その間アジア大会やローマ大会等大きな国際的行事もあり、非常な御苦心の連続だったことと思う。どうかこの4年間の経験を生かされ、今後も水連強化のため一層の御協力御指導を頂きたいものである。

“世界新が出た瞬間”

去る4月2日都営室内プールで行われた室内選手権大会において豪州から招聘したアンドリュ選手は100mバタフライで世界新記録を出したが、その一こま……。

スタート直後から早いピッチとリズムカルな泳ぎでグイグイと日本選手を引き離しゴールに迫まるアンドリュ嬢の見事な力泳振りとはただアレヨ！ というばかり。時計はまさしく1分08秒9、ラミー（米）の1分09秒1をしのぐ立派な世界新記録。

審判席も計時員もまさかとは思っていたが、ただただ上り坂の若手はどこまで伸びるかの実例をまのあたり見せつけられたレースではあった。なんせアンドリュ嬢はフランス女優ばりの美人選手。学校出たての若い諸君の多い役員連、興奮さめやらぬアンドリュ嬢をかこみとつかへ、ひつかへのカメラ攻勢を見て「チェツ！ フェッションショウじゃねえぞ」……ひがむな……。

泳ぎ方に対する一つの考察

宮 畑 虎 彦

(1) 手の泳ぎを……

昨年の夏、「目で見る水泳教室」を樋口前会長から借りて、あちこちの講習会に持ちまわり、10回以上くり返し見た。

クロールについていえば、日本の選手の足は、例外なく標準的な6打であり、外国選手のは、1つの例外を除いて、全部変則であった。ある者は4打して、あとは足を流しているし、ある者は足を動かす途中で両足の母指をぶつつけて、そこでちょっとタイミングをそらしている。

そのかわり、外国選手の手は、水に入れるとすぐ水をかいて、少しも休まない。一方日本選手の多くは、手を水に入れてから、しばらく休んで後、水をかきはじめるとくにバタフライでは、トロイの手が水に入るやいなや一気にかくのに対し、日本の選手は一度水にもぐり体がそって手先がやゝ上方に向かうところから、はじめてかきはじめると、6月下旬から8月にかけてのことであったが「トロイのこの手のかき、これは恐ろしいですよ」と各会場で話したものである。おそらくローマでのトロイは、あの手に対して体と足の動きがフィルムに撮った頃(1959)よりもよくなっていただろうと想像している。

「手のかきの強い泳者が短距離にはよく、長距離には足の強い者が有利」とアメリカではいわれている。なおアメリカ人の場合、クロールのスピードの70%は手のかきによるといわれている。日本人の場合、これと同じにはゆかないとしても、手のかきはオールのようなだし、足の動きは「ろ」のようであることを考えると、やはり手から生むスピードの方が大きいと思う。そうだとすれば、足を遊ばせても手をじゅうぶんにかく方が、その逆の場合よりも有利なわけである。

アメリカあたりの練習が、したがって、手に重点をおき、日常の練習でも手だけで泳ぐ練習が多い。長沢選手がエール大学から帰ったところ、「午前、午後手だけで1000m泳がされる」といったのがそれである。20ポンドのメジシンポールを5m離れた相手との間で、お互いに長座して100回も投げ合うはげしいトレーニングも手に重点をおくからである。

だから、泳ぎの中心が手にある。たとえ足の方は少し

変でも、手の方はゆるがせにしないのである。その結果フィルムで見るような泳ぎが多くなるのだと思う。

日本の場合はこの反対で「日本人は足が強い」という事実で固執したのである。ばた足の練習はずいぶんよくやるが、その割合に手の練習はしない。先天的に腕が弱いため、その必要を感じても、手の練習はつい怠るのかもしれない。サマーソルト・ターンを知ってから長い年月経過したし、その利点はよく知っていたながら、それを檜舞台で用いたのは、ローマでの石原選手がはじめてだと思ふ。(長谷選手のターンは、水中写真で見ると、ほんとうにサマーソルトはしていない。)日本人のこのような保守性が、クロールの手についてもいわれるかもしれない。

ともかく、短距離に関するかぎり、このことを研究してみなければならぬと思う。

(2) 筋の鍛錬……

ヨーロッパの神話につきのような話がある。山に住んでいる女の家に子牛が生まれた。子牛に飲ませる水は山の上の井戸にしかない。女は毎日子牛を抱いて山を登った。子牛はだんだん大きくなり重くなったが、同時に女の手も強くなって、牛が大きくなった後も、それをついで山を登ることができた。

話そのものは「つくり話」であるかもしれないが、「抵抗をだんだん増せば、筋力もだんだん強くなる」のは真実である。高石会長は、強化委員会の席上「人間は環境に順応する。強い練習をつづければ、からだに順応してだんだん強くなり、苦しい練習も慣れて楽になる」という意味のことをいった。筋もそのとおりである。

水泳人は、シーズンオフにはよく気をつけて、筋の鍛錬をする。その時は、体操をするにしても、ゴムひもをひっぱるにしてもだんだん運動の強さや回数を増して、筋力を強くする。そこで次のシーズンに入って1週間もすると、もう前シーズンのベストに近いレコードを出す。ところが、それから3~4カ月のシーズン中は、それほど進歩しないという例が珍しくない。

考えてみれば、泳ぐとき、手や足にうける水の抵抗はいつも変わらない。それで、泳者は安心しているが、練習の割に筋力は増さないのである。その結果として、発育

途上の少年や泳ぎ方が進歩している時は別として、記録はあまり向上しないということが考えられる。

昨年であったか、日本代表の庭球選手が、100m を走るのに16秒かかり、鉄棒にぶら下がると1回も屈腕できなかったということをきいた。庭球を練習しても、それだけでは短距離を走つたり懸垂する筋力は養われないのである。しかし、このくらいの体力で、そう強いボールを打ったり、非常に敏速に動きまわることにはできないはずである。ある先輩の言をかりれば「軽い軽いラケットを使って、平素楽な練習をしているから、いざ外国選手と打ち合うということになると、てんで歯がたたない」のである。その後、庭球界では、サーキットトレーニングその他によって大いに体力養成に努力しているらしい。

ボート選手は、あの苦しい練習（むかし私は、ボートから水泳に転身して、泳ぎは楽だと思ったことがある）にかかわらず、「ボートの練習だけでは筋力は強くない」というので、もっと抵抗を加えたバック台をひいて、筋力増強をはかっている。

水泳でも、シーズン中、抵抗を大きくして泳ぐ練習なり、別の方法でもよい、筋力を増すトレーニングが必要だと思う。

(3) 考えたいこと

「手を中心にした泳法」と「筋の鍛錬」について、私の意見を述べた。かりにこれが真実だとしても、それを実行する前には考えなければならないことが多い。

現在、腕の弱い日本人が、その弱い腕を中心にする泳ぎをやって、すぐ成功するかどうか。人のからだは、急につくられたものでなく、人類としては100万年もの歴史を経て現在のからだをつくっている。日本人のからだは、少なくとも何万年かの、日本での生活から築き上げられている。また人は、手、足、頭という部分を集めて組み立てたものではなく、つねに全体として統一されている。われわれは「測定」によって、一応「腕が強い」とか「弱い」というが、その腕を強くするだけの方策を講じてみて、果して所期の目的—全体としてのその個人の泳ぎを改善することができるかどうか。

「筋力を強くする」ために、現在行なわれているサーキットトレーニングを用いて、果して水泳に役立つ筋力を養成できるかどうか。また、われわれの強化の対象は年若い青少年であるが、これらの者に、そのようなトレーニングをすることが有効であるかどうか。

何もかも、一応疑ってみた上で、考えながらやってみなければならぬ。

「インターバルをやったら、短距離は強くなったが、長距離はさっぱりだめだった」となげいた高校の先生があった。インターバルを「うのみ」にしていい加減なトレーニングをしたのではないかと思う。

どのように気をつけても、なお失敗はある。みんなで考えて、よいと思ったことは、ともかくやってみなければわからない。冒険だが、それをしなければ、目立った進歩も期待できない。

(筆者は本連盟常務理事、普及委員長)

進展するシンクロスイム

白山源三郎

シンクロスイム (Synchronized Swimming) はまだ新しいスポーツであるが、茲数年の所相当普及もして来たし、国によっては急激に発達もしつつある様である。ヨーロッパでは今ではどの国も始めているか、又は興味を持ち、実際に始めようとしているかであると言うのが、昨夏ローマに於ける国際シンクロ委員会に於ける委員長の報告であった。中でもオランダでは、かつては競泳の盛んな国であったに拘らず、競泳大会を催しても精々数百人の観客しか来ないのに、シンクロ、スイムの大会をすると、二千、三千と云う観客が集ると云うことである。

最も普及もし、最近急に盛り上って来たと云われるのが米国で、オルセン女史の話では、昨年、米国で発刊し

た、AAUのシンクロハンドブックは四千部印刷したのに全部売切れて、オルセン女史も手許に唯一冊しかなくすり切れたのを大切に便っている様であった。

スペインのFINAへの代表はローマで、本年即ち1961夏にはシンクロの世界選手権大会を開くのだと大言壮語したと云う事である。本年はどうか知らないが近い将来に於て実現するであろうと思える情勢である。

FINAに於てもシンクロの地位を認めて、専門委員会に、競泳技術委の外、飛込、水球と並んでシンクロ委員会を設けて居ることは御承知の通りである。

× × ×

それではシンクロスイムが、将来オリンピックに加えられるであろうか。之をシンクロ関係者が熱望して居

るのは云う迄もない。

又スキーにフィギュアがあってその特異な芸術性が
烈しい競技の間に加って、よい空気を醸し出している様
に、その参加が有意義であることは容易に認められよ
う。然し現状は極めて否定的である。と云うのは、オリ
ンピックが余りに発展し過ぎて今では参加選手制限のみ
が考えられ、実行されつつある所であるから、その遂行
が困難なことは云うまでもない。その今或る方面ではオリ
ンピックのゲームは全て距離と、時間を争うものだけ
とし、審判員が主観で勝負を判定するものは之を廃止し
様と云う考えさえ真面目に検討されている状況である。
オリンピックに加入させるスポーツ種目は16カ国以上の
国に於てそれが行われて居る事が必要である。シンクロ
の行われる国は今16カ国以上を数える事が出来るから
此点では充分資格があるらしい。

然しこの様な理由で資格が出来ても今の所加入は難か
しい。FINAのシンクロ委員長もローマのFINA総
会で奮闘し、終日戦つたけれども効果がなかつたと云つ
ていた。然しその性格上エキシビジョンとして加入は容
易なものではなからうか、又その場合スタント（各個の泳
ぎの型）だけの採点競技の方が可能性があるのではなから
うか。

シンクロスイムは主として女子のものであり、又女子
にはうってつけの水泳のゲームである。その意味では、
女子のみのゲームとして之をオリンピックに於て行うこ
とは、オリンピックに女子に参加の機会を多くし、以て
オリンピックを幅広く有意義なものとする点でよい事
であると思う。

× × ×

シンクロスイムは前にも述べた様に新しいスポーツ
であるだけに又問題点も多い。一つはシンクロ競技の規
定が米国とヨーロッパとでは相当食い違いがあると云う
事である。ヨーロッパでもドイツは又少々違っている。
そこでFINAの規程は、ヨーロッパで先ず先に行われ
た為に之によっているが、アメリカの規程はアメリカで
独特のものを作って用いて来た。そして実際の進みに従
って、改正されて米国の本場から見て相当進歩して居る
と見ている。従って、米国としては欧・米不統一の不便
は認識していても、直ちに歐洲型を基とする国際規程に
乗り替えると云う事の出来ないのが現状である。然し
国際的競技の時機に迫っている形勢であるので、米
国コーチの一部の人は米国規程を成可く国際規定に近付
けるべく努力している様である。その実績もあがりつつ
ある。

× × ×

アマチュア規程はシンクロスイムについては極めて

微妙で、又大切である。これが華麗なものであるだけ
に誘惑も多く、てい触が起り易いのは自然であろう。

此点についてはオランダのアムブラフト氏（委員
長）にオランダの実情を聞いた。オランダでは、シンク
ロスイムの競技会はアマチュア水泳連盟の主催でなければ
開かない。若し他の個人又は団体が開こうと思う時
でも、水泳連盟加盟団体が之を引受けて行う、即ち加盟団
体の仕事となる訳である。その場合経費として1時間
100ギルダー（約5,700円）の割合で経費を徴収する。我
国でも此配慮が必要であろう。然し之だけでは選手の各
個人のアマチュア資格を守るのに充分でない。各個人
に対する誘惑を防ぐ方法が必要である。日本水連シンク
ロ委員会では、シンクロだけの特異な具体的なアマチュ
ア規程を作って判り易くし、選手自身が犯則に陥ら
ない為の判断の出来る様にしたいと考慮中である。

× × ×

ローマのオリンピックには、和、独、と大勢で押寄せ
て来た米国のチームが来て、室内プールでデモンスト
レーションを行ったし、カナダ、ハンガリー、仏、伊等の関
係者が集った。そして各国の様子を聞いたのであるが、
之等専門的な指導者の考えとして、今は最早シンクロの
選手を競泳選手の古い者や競泳が見込めないから転向さ
せたものなどを集めて養成する時代でないとうこと
に一致して居る。シンクロ選手は初めからシンクロ選手と
して養成すべきである。それも競泳選手よりも年令的
にはズット早く、幼年時代から始めることを考えねばなら
んと云うのである。オランダの如きはその様な広大な理
想のもとに百名に余る少女選手を一人の婦人コーチが専
門的に養成に当たっていると云う事である。日本でも、今
からその様な計画をたてて、将来遅れをとらない準備を
する必要がある。

× × ×

ルティーンを完全に泳いで競技をするのを今は建前と
して居るが、競技としての採点の不正確さもあり、前述
のオリンピックに於ける競技の主観的判断による勝負決
定を排斥する空気に対処して、少しでも合理的にする為
もあり、目下「スタント」（各個の泳ぎの型）だけを以
て採点競技をすることが考えられて居る。国際規程にも
之が折込まれる事に将来なるかとも思うが、之は又ルテ
ィーンをやる際に於ても、その中に含まれるスタントを
正確なものとする点に於て役に立つものでもあるので、
我国に於ても本年から試みにスタントの競技会を行って
見る事になつている。方法は大体飛込競技のやり方と思
えばよい。

× × ×

（以下19頁へ続く）

Bulletin を 読 ん で

(飛込関係について)

原 秀 夫

○ FINAの Bulletin 24号及び25号によると飛込規則で東京オリンピック迄に変わる一番大きな事は女子高飛込種目の変更である。IOCの意見では従来の女子高飛込の種目は難かしすぎるから次の様に変えると報じている。

規定飛が①前飛、②後飛、③逆飛、④後前飛(何れも立、走りは自由、型も伸、蝦、抱の何れでも良い)の4種目となり、選択飛が3種目加って7種目で競技することになる。

一口に云って今度の改変は1932年—36年ロス、伯林当時に再び戻ったと云えると思う、「歴史は繰り返す」と云うが戦後激しいアクロバティックな動きが別に居た飛込界に、先ず女子高飛込から再び静かでリズムカルな美しさを追及する動きが復帰して来た様に考えられる。

この変革によって女子飛込選手が少くとも高飛込に於て、姿態の線が美しい大型選手に取って変られるとすれば我が日本の女子選手についても再検討を要する時期であろう。

○ IOCの事務局自身の提案以外に英国とスウェーデンから競技規則についての活潑な提案がなされ採用されるものが頗る多くなって居るのが目立っている。

前記の女子高飛込の種目の大改変も英国の提案がそのままIOCに採用されたものであるし、スウェーデンの提案は今回は否決になってはいるが飛込競技に対して再びヨーロッパが非常な関心をもって来たことは注意を要すると思う。

○ 1964年以降実施の予定であるから東京オリンピックとは直接関係はないがアメリカから①審判制度について、②男女飛込種目について の二つの大きな提案がなされ、IOCでも一部採用の様になって居る事は之又注目を要する。

即ち④飛込審判について7人制の審判員の場合従来最高最低2つの採点を除去して残りの5人の平均点を採用して居たのを、高い方の二つ、低い方の二つを除去して残った3人の審判員の点数を合計すると云う方法である。

この方法は現在でもアメリカでは採用されている処もあるが、権威をもった国際審判員が国際競技で責任をもって出す審判採点について、採用するものよりも否決される方が一人多いと云う事は何のための7人の審判員か? と云う疑問も起きて来るし、現在の方法と果してどちらが適正、妥当であるかについて、出来ればIOCの論議の経過を示す議事録でも造って貰って日本の飛込委員会でも慎重に検討して見たいものである。

③男、女の飛板種目を規定5種目、選択6種目の合計11種目に仕様とする提案である、かつて1928年頃に男子飛板11種目の時代もあったしアメリカからの提案の理由が明かにされて居ないので何とも云えないが、明らかに改悪の臭いが濃いと思う。

アメリカ飛込選手が「宙返り」と「捻り」を巧にコンバインドして高い難易率を乗じて優位を保って居たのが近年世界中の飛込選手にすっかり呑み込まれて遂に首位を奪われる窮地に立った為め、更に一種目を殖して何とか首位を取り戻そうとする露骨な対競技成績的な提案であり、出来れば他の国々と一致して否決したい案である。女子飛板種目の増加については、前述した高飛込の種目数を減した事実から考えても問題にならず、もし取り上げるとすればIOCの権威にもかかわる「ムジュン」であろう。

○ 次に之又アメリカの提案で1m飛板種目の増加案があるが、之は真に良い提案で如何にも1m選手権の盛んなアメリカらしい案であり、この事から考えても日本に於ても1mの選手権を何等かの形で確立して(室内選手権等最も良い時と思う)本当にスプリングボードの踏み方を覚えてから、3mや高飛込に移って行く方法を再検討する必要が痛感される。

○ 世界の飛込界は日進月歩する面もあるし、一方稍復古調を帯びて来た面もあるが、何れにしても日夜目まぐるしく変化して居る事は疑う余地はない、日本飛込界も選手は勿論監督も、コーチも、更に此等をオーソライズする飛込委員会も、もっと奮起して愜しいものである。
(筆者は本連盟評議員)

(((千葉真一先生を囲む座談会)))

— その 1 —

日 時 昭和35年 初秋の某日

場 所 東京浅草橋・千葉医院応接室

出席者 千葉真一氏、小林高志氏、菊田保孝氏

小林 先生太田派の話の一つ。

千葉【だいたい太田派というのは、太田先生という



人は水戸の人からいろいろ話もあるから、古い、私の子供の時のことは知らんけれども、とかく水府流には違いない。水戸から来たね。太田捨蔵という人が水戸から来た人で、そうして水泳場をこさえたわけです。太田

捨蔵という人はなかなか頭のいい人だし、水戸流コチョコチじゃないんだ。そこえ本田、永峰、駒井、溝口兄弟、和田、宇田川、高橋などがはいて、一つの太田派というものを型づくって来たわけですね。太田捨蔵先生が死んでから、水戸から市村という人を呼んだ、市村という人は温和しい年とった人であまり活気がなかった。その次に、今度はやはり水戸から来た人で岡崎興貞という人、この人の時に本田、駒井、永峰、溝口、宇田川、高橋君なんか活躍したわけですよ。それでその水府流の家元師範というものの資格、本来隅田川の千鳥掛け即ち隅田川の往復を100回やるのを規定されておりました。そうして高橋雄治は朝8時頃から行って、夕方6時頃までね、あそこは潮流があるからね。

小林 そうすると、向う岸へつきますね、そうしてせて上へ行ってまたもどるんですか。

千葉 行ってもどって……

小林 そうすると対岸へ行った場合にはせり水して上へ上って行くわけですか。

千葉 そう、潮の関係でね、なかなか大変ですよ。顔の半面真赤になりますね、高橋雄治君が死んでから宇田川五郎と本田存ですね、太田先生没後宇田川が浄書した巻物即ち次の家元としての伝書を高橋に贈呈したわけです。宇田川は能書でしたから。

小林 ははあ、しかし、何か伝書という水晶のじくのはいったものを持っておりましてね、これがいわゆる伝書だといって、何か巻物を拝見しましたがね。

千葉 われわれもその伝書を持っています。宇田川氏

は非常に字がうまいんでね、伝書は宇田川氏がかならず書いた。

小林 何か、宇田川さんは外国へしばらく行っておられましたね。

千葉 ああ、フランスかどっかへね。川上音次郎、貞奴一座員として。

小林 ええ、それで帰ってからしばらくしてポッと出てこられて、何か水泳の仕事を手伝いたいという話がありまして、そうして研究会へみえましてね、それじゃ一つ、研究会の若い者に太田派をはっきり教えてもらおうというんで、われわれは教わった。そしてまあ



仕事しておられなかったものですから、何か仕事はないかという話で、それじゃ隅田プールの監督を隅田プールを改造するときだったので、宇田川さんにやってみようというんで、皇后陛下の御台覧の時宇田川さんをあそこで推薦しまして、そしてあその水泳場の監督を二期ぐらいお願いしたんですがね、それで地元がなかなかうるさいところなものですからね先生は水弓をやられるんですね。その矢が観覧席へ飛び込んじゃった。それで、あその連中に妙にゴタゴタ因縁をつけられてですね、それでまあ、あその連中を起用してくれてわけです。浅草で水泳習っている人は大勢いますからね、それで宇田川さんはあそこをやめられて、日比谷の方へ代っていただいて、そしてしばらく日比谷プールの面倒みてらっしゃったことがあります。その時分にわれわれがまあ、太田派を泳いでいたんですよ。まあそういうものを持っておられて君等もだんだんに伝えていかねばならんというおられたわけですが、まあその時分にはそういうものに対してあまり魅力がないものですから泳ぎを習っただけで引き下がっちゃったものです。詩よみみたいな、心得みみたいなものを書いてありましたよ。

千葉 われわれが貰った伝書には修身みたいな文句が書いてありました。それから泳ぎの名前をざらっと書い

てありました。それが初伝というもので、もう一つ奥へ行くと、もう一巻あるわけなんだがね、前後二巻あるわけだ、しかし、二巻はたいいてい救助法とか、そういう心得とかね、二巻を貰ったりした人はないですよ。

小林 私はですね、要するに一巻といいますかね、それを拝見したんですが、これはまあ何といいますか伝書でね、次代に渡すときにはこれを引き継ぐんだというようにことをいわれていた気がしたんですけどね。

千葉 そうして宇田川が、君ね、あれがフランスへ一諸に行ったんです。それで帰ってから少し、杉並の太田水泳場、われわれ講道館連中とはうまく合わなかった。

小林 そうらしいですね。本当に先生とは大部確執があったように。

千葉 そうです。それでもって伝書に伝る印を本田がにぎったんですよ。今、私が持っております。そういうわけで、あの印がなくちゃいかんというようなことにとるわけです。ちょうど昭和元年頃宇田川の職がなくて本田の紹介で、講道館の頃、講道館の有段証書とか免状等を書く書記をやって居ました。

小林 先生が太田派をお習いになったのは隅田川の道場にお通いになって……

千葉 浜町は細川家の地盤だったですね、それであそこに細川侯の下家敷があった。其後長岡護美と云う子爵（細川家の親戚）が時折見えられた私は細川邸の地所内で生れずっと浜町で生長したので細川家の家中の人とは極めて親しくして居たのである。

小林 ええありました。細川邸が黒い塀のね、私どもも、あそこの塀の前の水泳道場へ通っておったんですけどね。

千葉 それであの細川邸内に50メートルぐらいのプールみたいな大きな池があった。そこで私どもは10才位の頃から細川家の溝口など、細川藩の家中の人々が大勢泳いでおった。

小林 ははあ、溝口さんというのは細川の藩士なんですか。

千葉 そうです。片親が昔の国家老というもう偉い人ですよ。米田とかいう侍従をやっている人の関係でね、それで溝口貞幹という人は細川家にとっては重い人だった。それだから浜町の細川家の下屋敷の地所内に家をこさえてもらってそこに住んでいた。その下屋敷へはめつたに出来ないけれども子爵長岡護美という細川家の親類の人がしばらく住んでいたわけです。それであの池は隅田川と水門でつながっていたので小さい魚が入ってきて池の中で発育しました。細川侯という人は「イナ」の飛び上るのが非常に好きなんです。それでその池はイナ、ボラは禁漁なんです。でもウナギやフナとかは獲ってい

い。それで侯爵や子爵等は屋敷からイナの飛び上るのを見て楽しんで居たわけですね、吾々小供の時大きな池と云って居た其の真中に弁天さまがあってね、相当広い池でしたね、それを東京の大震災か、其時皆茲に避難した震災のあと東京市の方へ売ったかどうかしたんです。その後細川邸は浜町公園となり池を埋めて仕舞いそれから浜町公園の一角に浜町プールというのが出来た。私はあの池を利用するののかと思ったら、池よりずっと南の方に寄って、新たに造った。

小林 私どもはですね、大正3年ですか、いや大正2年か、あそこへ行きだした。その時分はまだ細川さんの前に水泳場が並んでいましてね、一等はじめの千代田小学校の前に伊藤さんの道場があって、離れて大竹があった。笹野流。それから講武永田流の永田家、それから石段のところがありましてね、その次の上野さんの練武館又鈴木正家と上野。（菊田さん入室）それからその先が荒谷の道場と、それから研究会、その先が土屋の道場と色々水泳場が多かったですね、あの時分の川筋の道場というのは、それで溝口さんという方が細川藩ならば本来踏水術とあるべきですね。

千葉 それはね、本来熊本で泳ぎの稽古したわけではないから。

小林 細川さんのご家来だと踏水術がありそうな気がするんです。

千葉 うん、どうもね、何か熊本の白川とか球磨川でやったんだろうという。計算してみるとそれをやる時もないし、幹知さんの方は熊本で泳いだかも知れない。溝口というのは一番上の人が貞武。

小林 ああ、東京におった上部の人だな、それじゃ。

千葉 溝口貞武という、これは総領ですがね、これは米田侍従の口ききで宮内省に勤めて居た。辞めてからまあ熊本の人は魚釣と投網とかが好きで、それでしばらく房州の方へ転居して居た。その次の人は法律をやっている、ほとんど水泳に関係はなかった。次の人が早抜手がうまいんですよ。其時の足はあおりじゃないですね、それから此人は潜水が非常にうまい。隅田川をこちからもぐって行って向うで手を上げてまた帰ってまたやる。非常にもぐるのが早い。よくあんなにもぐれたと思う位にもぐる人でした。結核で死ましたがね。その幹知（トモシロと称号）の弟が幹樹でしたね。

小林 その人ですかミキさん、ミキさんという方は。

千葉 ツコキちゃん（又はチヨキ）ツヨキちゃんと呼んでる。どういふのか、われわれ子供の頃はツヨキ又はチヨキさんと呼んでいたですね、ツヨキといいましたね強い人、からだは弱いんで。これも千葉医専を出て後結核で死んじゃった。その下の幹美というのは私と同年配

で、この人は早く死にましたよ。

小林 その真中の方ですかね、昭和2年頃名古屋におられたことありますね。

千葉 名古屋？ さあそれは知らないなあ。

小林 私、いつか日本泳法のね、水泳昔話というのを名古屋でやったんです。昭和2年、昭和4年かな。そのアマチュア、ローイングクラブとの試合の話をしたんですよ。そうしたらね、わしは溝口だという人が名古屋におられまして、名古屋でしゃべったものですから、それでね、そういう先輩がおられるなら、溝口さんをお願いをください。と名古屋放送局へ行ったことがございます。私、何かで頼まれて名古屋へ話に行ったとき、その古い話をしたものですからね、そうしたらおられましてね。

千葉 今の幹樹という人は幹知の弟の方でね、これがまた、ノシがね非常に速いですね、水雷艇というあだ名がついておりました。速いけれども、皆んなでどうも研究してもわからない。本人も技術上の理由は知らないです。扇足のスートそのあとの伸びがね、素敵に早い。だから本田や何かそのころはもぐって足をみたりいろいろするんですがね、継足使うんだらって皆んなその頃水中の写真撮るわけに行かなかったんで潜ったり、いろいろやってみたがわからない。本人が自分でやってわからない、つまり意識してやっていないんだよ。ただあおってるだけそれで本田が、いや足の曲げが違うスクルーみたいに足をひねるんだらうというわけで、本田がひざを出してやってみたんです。

小林 ええ、いまだにやっていますね、上の足が浮かなきあ、いかんといつてね。

千葉 本田がひざを出してね、やってみただけで、そりや溝口みたいには乗れないですよ。

小林 その方ですか、二重ノシが非常に強くなって、アマチュアクラブとの試合で二重伸で勝ったとかいわれる……。

千葉 ええ、二重伸です。もうそれは非常に早いですがね、その後継ぎができるかと思っておりましたが、まだ後継ぎはありませんね、アマチュアクラブのアーヴィンという人が、クロールと違う片手抜きですね。それが一等早かった。それと400かな、400ヤードだったかな、英国人ですよ、それでアーヴィンが一生懸命やるのに溝口がスー、スー、と二度位かくと行っちゃやう、えらい速いもんでしたよ、隅田川でも2回やったですね。

小林 そういう記録はね、加藤進さんが随分持っていますよ。あの人はだいたいジャーナリストですね。先生は去年は天理へおいでにならなかったですね。去年は加藤さんが来て、いろいろ古い話をしましたですよ。結

局、アマチュアクラブと試合をしてるといいますが、身近に知ってる方というのは極僅かです、先生は試合どうでした。

千葉 私はね、レースの前にどんな泳ぎをするか、どれ位の距離に行くか、ストップ・ウォッチを持って探訪に行っただですよ。そっと知らん顔してね。練習の時間計たりなんかしてね、そのときに、私が飛び込みをね、初めて見て、これはいいなあというんで例の何という名をつけたかなあ、足をこう伸してね（ノビ逆飛）、前の逆とびと違って、足を伸ばしてやるのを初めて私がやったんです。普通のダイビングとか、向うのはね、真直にはいるでしょう。それじゃいけないから浅くはいらなくちゃいけない。日本の逆飛びにならないですからダイビングとはその要領が違うんですよ。飛び込むときにはもうほとんど水平に両手を開いて、途中でグッと首の角度を変えて夫れに依て体の重心を前方に移して浅く水にはいる。普通の場合はスーッと真下にこうはいるですね、浅くはいることを始めたんです。それまでは逆飛びというと必ずひざを開けて、それで水をはたくのが要領でしたが、早く出るようにね、私のは足は伸したままです。

小林 というやつもそうでしょう。曲げては行ったから。

菊田 そうショーピンもはいつてから水をけりますからね。

千葉 その足を使わないで角度と重心の移動とでもってね、だから首の傾け方で角度が決まる。

小林 わりと隅田川でそういうのを教ったのか、皆んなやりましたがね。われわれのときは何というのか総合した日本泳法という立場から飛込みやるものですから、逆下とか順下とか向井流のやつもやりやすし水府流のやつもやる神伝流の飛翠もやる、いろんなのを研究会じや飛ばしておりますけどね、今、先生のいわれた飛込みもですね、平野さんよくやっておられましたけどね。

千葉 浜町の体育会ですか、平野さんなんかしきりにやっておりました。

小林 そうすると太田派の道場というものは先生方がいらっしやったのが最後ですか、稽古したのは。

菊田 浜町ちゃ、そうです禁じられたのが。

小林 いや禁じられたのは僕等が最後なんだ。

菊田 そうかな。

小林 そりゃね、大正六年に禁じられた。

菊田 その前にね、僕等が横網にやって来たころ、そのとき共脩会が隣りにあったんだ。その小屋の隣りに。そのとき先生の方は浜町で、禁じられて、共脩会の中野秀治のところへ来たというんだ。

千葉 太田水泳場の生徒は、あそこへ預けられた。

菊田 それは水が汚ないからじゃなかったかね。

小林 そうじゃない。水が汚なくて止めたのは大正元年。

菊田 隅田川が汚ないというときには月島へ越したんですよ。

小林 太田道場が共脩会へ行ったわけですか、一諸に。

菊田 そうそう。

小林 ああ、そうするとね、われわれのところもね一度何か教場がもたなくなつてね、千住の方へ行ったことがあるんだ。会がね。

菊田 横網に一度いたことがあったがねえ、平野君が。体育会というのは横網にあったね。

小林 いや協会というんだ僕等の方は。

菊田 平野君が浜町におったときは。

小林 それは細川さんの屋敷の前なんだ。

菊田 先生の方の道場もやっぱり近くだったんでしよう。

千葉 その水の汚いのより、経済的にね。

小林 そういふことでしょうか。そのかわりね、太田派の水泳教えてやる代わりに、お前の道場の一角をおれんところによこせといふことだ、僕等もそういうことやった時代があるんだから。

菊田 うん、その方ですよ。

千葉 小屋を建てる費用を誰も出さなくなつちやうからね、それで止めたんでしよう。

小林 その時分まで太田派の面倒をみておられたのは結局最後まで面倒をみておられたのは先生だの、本田さんなんですか。

千葉 そうです。

小林 そのときはもう宇田川さんは日本にいなかったですか。

千葉 宇田川は長崎じゃなかったかな。

小林 あゝ長崎ね、長崎で遊泳場会というのを作っておられたわけですね。だからあそこにも太田派の泳ぎが少しいる。新聞記者とか、それでよくわかりました。太田派の道場がどこでおしまいになったか僕はわからなかった。そうするともうはっきりするんだ。千葉先生が横網の共脩会の中に太田派の道場をもっておられた。そこで後のね、まあ先生はこういう仕事をもっておられた、それで水泳の面倒ばかりみておられたということになって、その道場が消えたということになる。そういうことですね。

千葉 その当時は竹下とか、京田とか、西川とか、そういう連中だね。

小林 それでその後で遊泳連盟ができたとき太田派の

要するに太田派のかたまりとして最初にはいつてきたわけですね。

菊田 昔、先生の道場が神伝流と一諸に浜町にあったです、先生の道場は細川さんの前にあつて。

小林 神伝流の最後の道場は放水路へ来ておつたんだ。回り回つてね。

菊田 いや放水路から須賀町へ行ったんだ。

小林 放水路まで僕は知ってるんだ。放水路では神伝流の連中に合つたんだ。

菊田 そうか、それから須賀町だよ。放水路で2年か3年かやったよ。

小林 あゝ、あそこに井口氏も来とつたんだ。昔の名残りの人がね、古い先生がよく来とつた。永田義章という人は結局太田先生のお弟子といふことではないんですか。

千葉 何かで別れちゃつたんですね、元はやはり水府流だった。

小林 太田派の一つの流れじゃなかったんですか。太田先生の弟子じゃなかったんですか。

千葉 そういう意味じゃなかったですね。

(14頁より続く)

オリンピックに加入はしなくても、オリンピックの際には何かの型で、ローマの時より進んだエキシビジョンの催などが企画されるのではないかと思う。オリンピック開催地国の日本としては之を受け入れ、シンクロ発展の一役を買わねばならないので、その時まで国内のシンクロランドの拡大向上をして置かねばならないと思う。

今年は第6回目のシンクロ日本選手権、出来るなら外に関西だけの選手権、などを催す外、春の講習会、スタント競技会等を催して、此方向に拍車をかける計画である。

最近毎年渡航して妙技を見せてくれた米国のシンクロ関係者から、予てより日本選手を米国に迎えたいとの招待がある。本年はたとえ数名でも送りたいと思つて居るが、今の所往復旅費の調達に行悩んでいるが、何とかしたいと腐心している。之が実現すれば、得る所が極めて多いことは云うまでもあるまい。(1961.3.10)

(筆者は本連盟常務理事 シンクロ委員長)



サーキット・トレーニングの所見

鈴木 茂二郎

1月初旬実施された中高校生の強化合宿練習の目標である基礎体力養成の一環としてサーキットトレーニングを行い、短期間であったが、その効果について実際経験した選手にアンケートを求め、それを参考にし所見を簡単に報告する。

注：実施前に選手全員を集めサーキットの実施方法、要領を説明する。又、新しいトレーニング故、無理のない簡単な種目（身体各部の筋力のバランスを考えて）を選択した。更に年令、男女別、に用具を揃えねばならなかったが、練習人員、用具、施設、練習時間、等の条件があり、十分なことができなかった。用具の点については体力差を考慮し比較的軽いものを使用した。

まず9種目編成のサーキットを行う前に個人別筋力のマキシマムを測定し、各選手の体力に応じたサーキットを実施した。合宿期間中男女共4回のサーキットを行い、その感想をまとめたものが表Iである。又、9種目の個人別回数（筋力）が表IIである。

以上を要約すると

1. 参加76名の賛成意見は別表の通りいろいろあるが、記入の無い者若干名を除き殆んどがこのトレーニングは効果があると答えている。尙参考迄に述べておすがサーキット反対の者は皆無であった。
2. 参加選手の基礎体力についてみると、標準サーキット及び補助運動を行ったが、負荷した運動量に対し事故者もなく男子は大体において負荷量を消化したが、更に高いレベルの体力をつくらねばならないことを痛感した。女子については、用具等に無理（特に中学生）があった事は前述したが、それにしても全体的体力が相当劣っている事が判明した。特に腕力、其の他腹筋が弱い、これは女子自身今回の合宿においてよく自覚したことと思う。
3. 其の他ランニング、柔軟運動、解緊運動、リズム運動を併用した結果、欠点として、
 - a 全体として身体の柔軟性に欠けている（男子よりも女子に多い）
 - b リラクゼーションをもっと考える必要がある
 - c リズム感覚の鈍いものが男女共多い
4. これらの欠点もさることながらサーキットの利点を挙げて見ると

- a 筋力の増大（特に短期間であるが女子の進歩が著しい）
 - b 循環機能の拡大（呼吸数、脈搏数によく表われている）
 - c スタミナの増大（選手の感想、其の他トレーニングを体験して）
5. 又、サーキット実施前、直後、休息後（15分休憩）の脈搏数を調査の結果、短時間ではあるが相当なハードトレーニングにもかかわらず疲労の回復が非常に早いことが理解された（別表II）、又個人差はあるにしても約30分休息後の脈搏数が運動直後の脈搏数と大差ない時は相当のオーバートレーニングであることも理解された。更に種々の脈搏測定により運動種目の適性判断をする資料も得られた。

最後に選手のアンケートにもあったが、サーキット実施後の身体的、精神的、部分的疲労感が他のトレーニングよりも少いことを述べている。

しかし未だ研究的段階で何とも確言はできないし、いろいろな批判はあると思うが、サーキットそのものの内容をよく研究し処方を変えて大いに効果をあげ得るような水泳トレーニングとしてのサーキットを育てていきたいと思う。

表I サーキットトレーニングについて

意 見	高男	中男	高女	中女	男計	女計
大変よいトレーニングだと思う。	7	6	8	6	13	14
思ったよりつらいものだ。	3		4	1	3	5
短時間で思う存分全身の筋肉を使うので効果的。	6		2		6	2
苦しいけれど体力をつくるのに最適である。	3	6	7	3	9	10
腕力が強くなり全体のバランスがとれてよい。	1				1	1
場所用具の点で学校へ帰ってから少し困る。	2				2	2
慣れないせいか疲れたがだんだん楽になった。	1			3	1	3
スタミナがついてよい。	1	1			2	2
体全体を使い水泳に相当と思うので一生懸命やりたい。	3	2	1	3	5	4
パネがつく。	1				1	1
疲れが少ないのでよいトレーニングだと思う。	1				1	1
トレーニング中は苦しいが終了後10分位で平常にもどるので水泳トレーニングとして効果的。	2	1			3	3

(高校女子の部)

氏名	運動種目名	椅子の登り 60秒	腕立 最高	バービー 60秒	仰臥胸上げ 60秒	ダビ ンベル 跳 30秒	バ 巻 1 き 上 げ の 30秒	ハ 膝 1 の 曲 伸 ・ 30秒	し び や が み 跳 30秒	平 の 屈 伸 ・ 腕 最 高	練習期日		直後の 脈搏	15分後 の脈搏
											36年1月11日 PM (水)			
											テスト 時間	目標時間		
江坂	65/28	20/10	22/11	52/26	35/17	6/3	15/7	30/15	0/1	15分00秒	目標時間は 適当にお決 め下さい	136	90	
小島	64/32	23/11	25/12	53/26	35/17	10/5	15/7	31/15	0/1	16.40		134	80	
斎藤	60/30	14/7	18/9	44/22	35/17	8/4	17/8	33/16	0/1	16.42		138	78	
辻本	64/32	22/11	23/11	43/21	35/17	9/4	19/9	33/16	0/1	14.25		168	108	
虎野	55/27	12/6	25/12	54/27	31/15	14/7	16/8	34/17	0/1	14.25		122	96	
高野	60/30	16/8	22/11	46/23	32/16	10/5	18/9	34/17	0/1	14.54		102	90	
小畑	58/29	21/10	23/11	41/20	33/16	8/4	16/8	31/15	0/1	15.50		114	98	
新子	64/32	22/11	25/12	50/25	33/16	11/5	19/9	34/17	0/1	15.55		104	88	
山崎	61/30	11/5	17/8	56/28	37/18	14/7	19/9	34/17	2/1	17.00		96	90	
山本	60/30	30/15	26/13	60/30	36/18	12/6	19/9	34/17	3/2	17.09				
生田	66/33	1/1	26/13	63/31	36/18	11/5	19/9	34/17	0/1	17.10		108	90	
黒田	68/34	55/27	28/14	51/25	34/17	15/7	19/9	35/17	0/1	18.03		92	80	
村松	56/28	15/7	25/12	52/26	35/17	13/6	20/10	37/18	0/1	15.45		98	80	
山田	56/28	35/17	22/11	47/23	31/15	15/7	20/10	32/16	0/1	16.09				
田中	55/27	9/4	23/11	42/21	34/17	6/3	20/10	34/17	0/1	18.04		112	86	
中島	55/27	31/15	21/10	49/24	35/17	16/8	20/10	34/17	6/3	18.00		94	86	
大山	63/31	22/11	28/14	46/23	37/17	13/6	24/12	39/19	0/1	20.06				
山中	58/29	25/12	28/14	66/33	37/17	18/9	26/13	39/19	0/1	17.09	124	84		

(中学男子の部)

氏名	運動種目名	椅子の登り 60秒	腕立 最高	バービー 60秒	仰臥胸上げ 60秒	ダビ ンベル 跳 30秒	バ 巻 1 き 上 げ の 30秒	ハ 膝 1 の 曲 伸 ・ 30秒	し び や が み 跳 60秒	平 の 屈 伸 ・ 腕 最 高	練習期日		直後の 脈搏	15分後 の脈搏
											36年1月11日 PM (水)			
											テスト 時間	目標時間		
鷺野	65/32	54/27	25/12	45/22	33/16	18/9	24/12	56/28	18/9	16分16秒	目標時間は 適当にお決 め下さい	146	86	
杉山	67/33	30/15	25/12	42/21	35/17	16/6	21/10	44/22	12/6	16.13		132	78	
森田	69/34	27/13	24/12	50/25	37/18	18/9	20/10	49/24	10/5	15.55		96	78	
大池	69/34	18/9	24/12	50/25	34/17	20/10	21/10	50/25	7/3	13.20		114	70	
清水	59/29	51/25	25/12	45/22	33/16	21/10	23/11	48/24	10/5	15.14		102	88	
高瀬	58/28	18/9	26/13	40/20	34/17	13/6	21/10	44/22	4/2	18.13		128	72	
石川	66/33	29/14	24/12	38/19	35/17	17/8	22/11	51/25	20/10	18:40		128	88	
鈴木	56/28	34/17	25/12	44/22	34/17	16/8	22/11	42/21	11/5				98	
伏木	67/33	34/17	26/13	41/20	34/17	15/7	21/10	49/24	15/7	16.30		120	98	
川島	52/26	23/11	21/10	27/13	29/14	13/6	19/9	44/22	5/2	18.43		118	86	
川村	66/33	30/15	29/14	65/32	41/20	18/9	27/13	56/28	18/9	16.30		110	84	
吉川	67/33	40/20	30/15	55/27	35/19	19/9	26/13	51/25	10/5	16.15		124	74	
馬場	65/32	40/20	27/13	46/23	37/18	20/10	26/13	56/25	13/6	16.30		108	84	
宮良	70/35	34/17	26/13	56/28	32/16	13/6	22/11	52/26	12/6	17.52		106	74	
中村	68/34	30/15	24/12	40/20	35/17	14/7	17/8	40/20	5/2	17.34		106	90	
中島	68/34	21/10	27/13	34/17	35/17	12/6	18/9	44/22	5/2	16.15		134	88	
木田	57/28	36/18	30/15	50/25	32/16	13/6	19/8	34/17	8/4	18.29	116	88		

(中学女子の部)

氏名	運動種目名 椅子の登り 60秒	腕立 最高	バービー 60秒	仰臥胸上げ 60秒	ダンベル跳 30秒	巻き上げの ベルグ 30秒	膝の曲伸・ ペラ伸 30秒	しび がみ跳 60秒	平の屈伸・ 腕 最高	練習期日		直後の 脈搏	15分後 の脈搏
										36年1月18日 PM (水)			
										テスト 時間	目標時間		
殿上	59/29	3/ 1	18/ 9	49/24	33/16	10/ 5	24/12	32/16	0/ 1	18分27秒	目標時間は 適当にお決め 下さい	106	82
土ケ内	63/31	33/16	24/12	66/33	35/17	13/ 6	15/ 7	32/16	2/ 1	20.15		94	58
虎野	68/34	25/12	25/12	63/31	33/16	8/ 4	17/ 8	37/18	0/ 1	19.47		84	82
木村	57/28	20/10	27/13	67/33	34/17	11/ 5	19/ 9	40/20	0/ 1	13.15		98	88
早川	56/28	33/16	30/15	67/33	34/17	1/ 1	19/ 9	40/20	2/ 1	13.15		152	104
水本	63/31	25/12	25/12	54/27	34/17	9/ 4	19/ 9	35/17	0/ 1	19.37		120	74
永坂	60/30	20/10	21/10	54/27	33/16	13/ 6	21/10	34/17	0/ 1	19.20		100	92
田上	59/29	21/10	26/13	42/21	33/16	5/ 2	21/10	37/18	0/ 1	14.10		80	74
高橋	64/32	23/11	32/16	54/27	33/16	19/ 9	22/11	37/18	0/ 1	17.13		106	94
中西	64/32	11/ 5	30/15	31/15	34/17	10/ 5	23/11	38/19	0/ 1	16.32		92	74
川上	59/29	7/ 3	26/13	54/27	34/17	7/ 3	21/10	38/19	0/ 1	16.55		104	92
岡田	67/33	45/22	27/13	61/30	36/18	12/ 6	23/11	37/18	3/ 2	16.48		100	80
福島	61/30	6/ 3	23/11	45/22	35/17	16/ 8	23/11	37/18	0/ 1	16.29		104	88
浦上	64/32	10/ 5	23/11	50/25	37/18	17/ 8	22/11	34/17	4/ 2	16.41			

(筆者は本連盟常務理事，競泳委員)

競泳巡回コーチ派遣について

強化対策本部の強化競泳委員会(委員長田口正治氏)においては、競泳巡回コーチ派遣に関し準備を進めていたところ、この程競泳強化委員よりなるコーチ団を各ブロック毎に派遣し、泳法、練習法につき各ブロック指導者と意見交換を行うと同時に有望選手のは握につとめることとなった。コーチは3、4名(種目別)を各ブロック毎に派遣する予定である。

ブロック別巡回コーチの日程は次のとおりである。

九州地区 5月上旬 約10日間
 中国 " 5月中旬 約7日間
 四国 " 5月中旬 約7日間
 近畿 " 5月下旬 約7日間
 中部 " 5月上旬 約7日間
 関東 " 6月中旬 約7日間

東北地区 6月下旬 約7日間
 北海道 " 7月上旬 約7日間

訂正

前号の昭和35年度日本競泳記録順位中下記の脱落がありましたので訂正致します。

800m 自由形

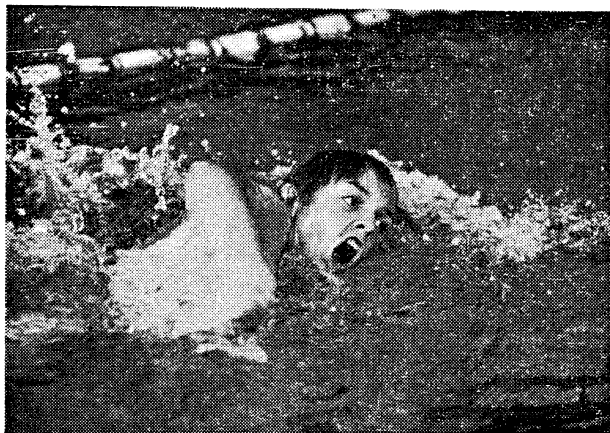
49位 加藤 晴久 中京大 10:30.0 別府 7-18
 学生3支部対抗

200m 平 泳

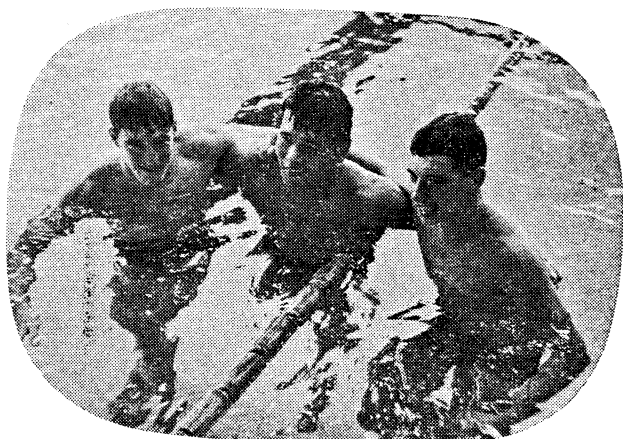
49位 沢村 常彦 中京大 2:49.0 別府 7-18
 学生3支部対抗

従って両種目共前号発表の49位は50位となります。

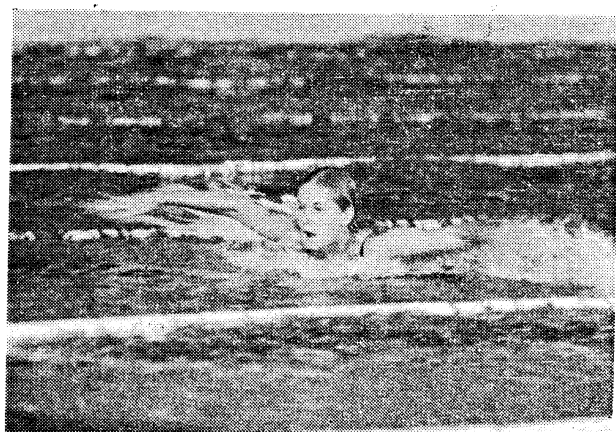
豪州選手を迎えた 第3回室内選手権大会風景



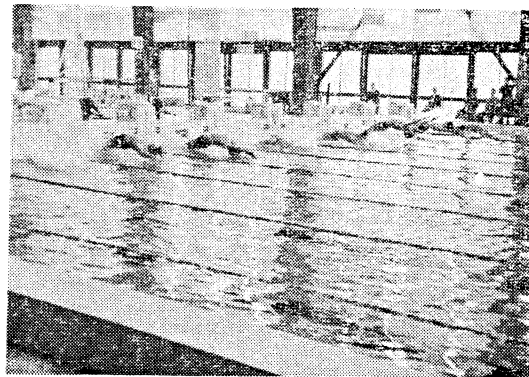
力泳するパーティー選手



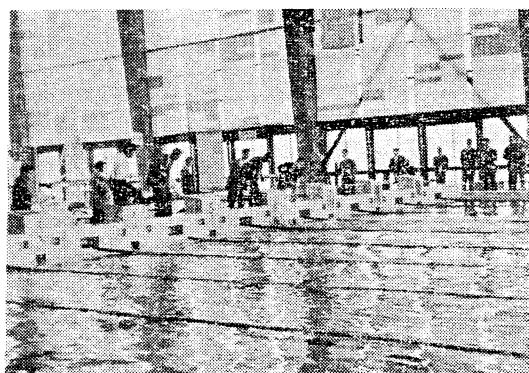
男子400m自由形決勝を極めて
左よりウッド，山中，ウインドルの三選手



世界新記録を出したアンドリッ選手の力泳振り



男子100m背泳決勝のスタート



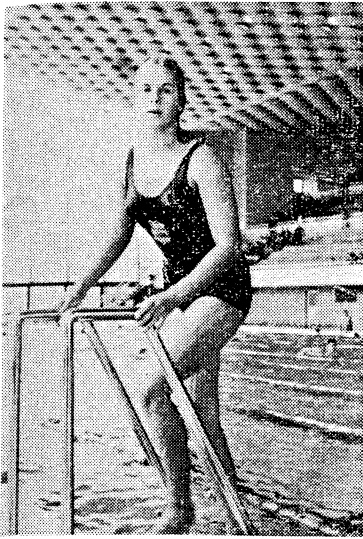
女子100mバタで世界新記録を出したアンドリッ嬢ゴールの瞬間



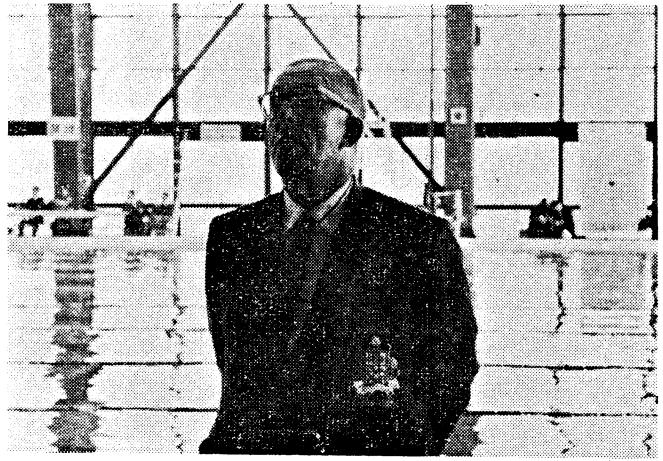
100mバタフライで世界新を出したアンドリッ嬢



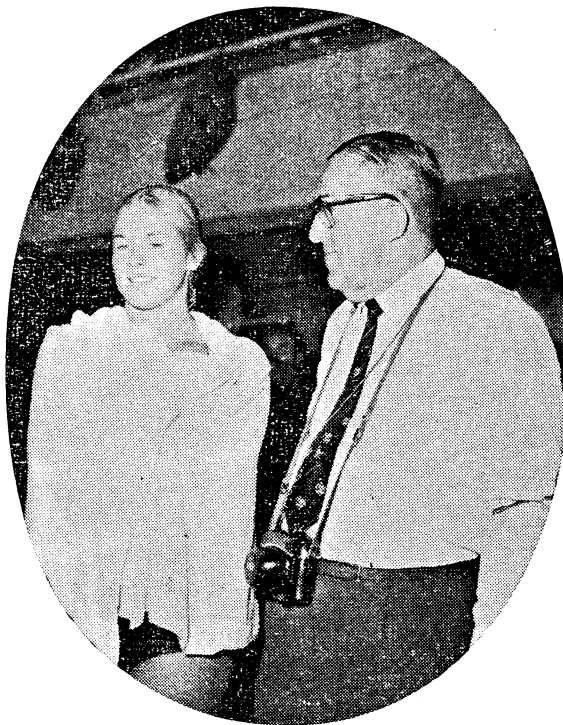
報道陣に囲まれたアンドリッ選手



プールからあがるアンドリッ嬢

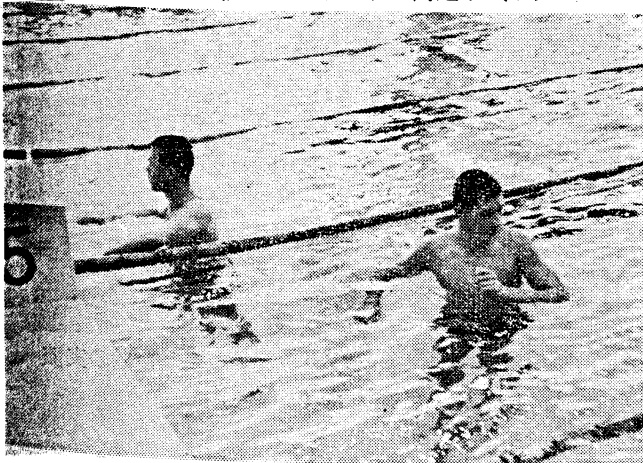


プールサイドにおけるタイラ監督



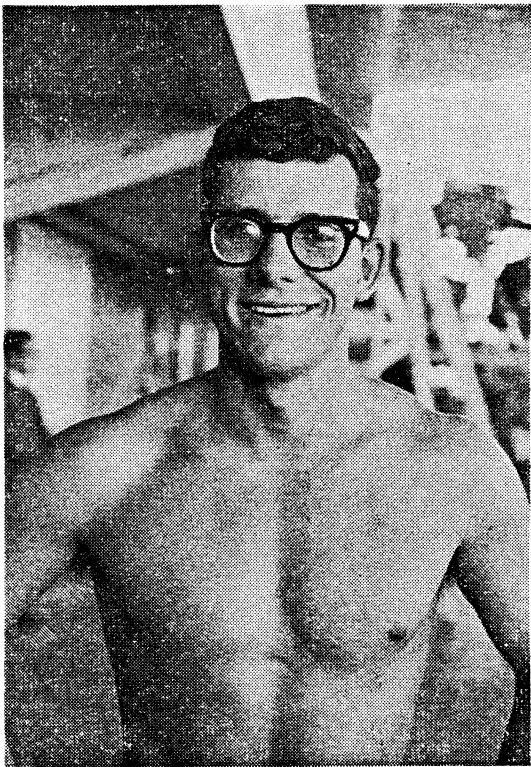
アンドリッ選手と
タイラ監督

男子 800m 決勝。ゴールした
後の梅本 (左), ウィンドル両選手 (右)

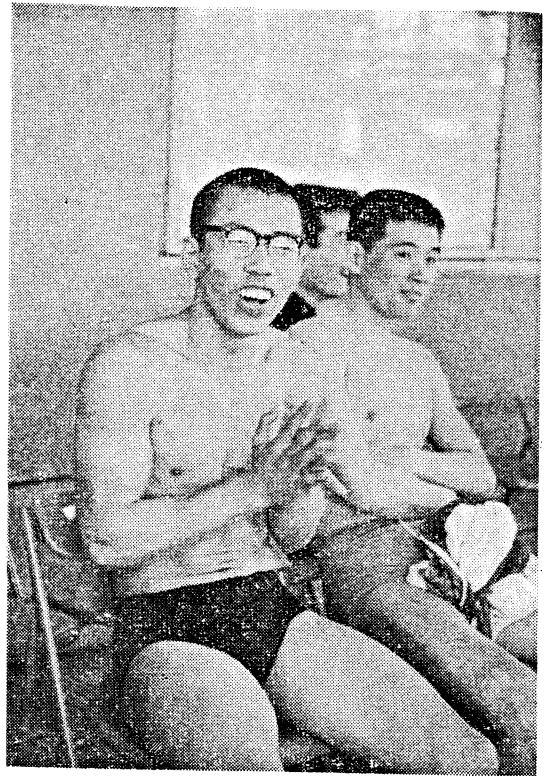


タイラ監督を中心に作戦をねる
豪州チーム





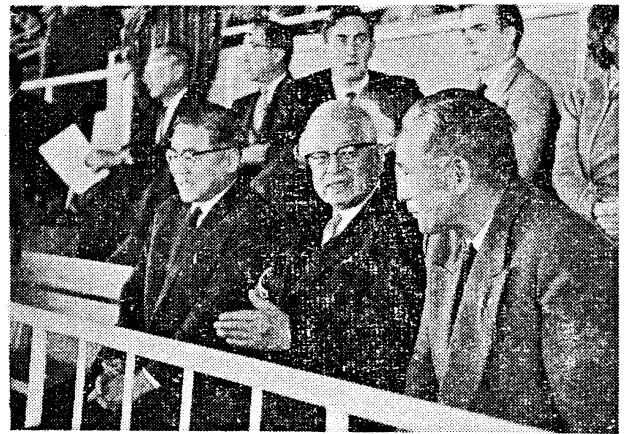
←百、二百自由形に出場したディクソン選手



→今後の活躍が期待さたる松本健次郎（佐伯鶴城高）選手



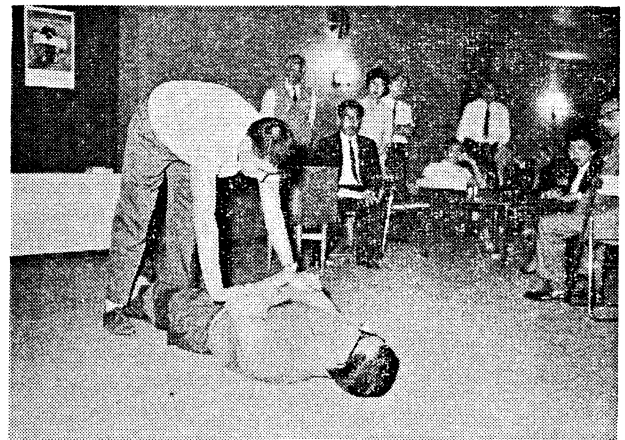
山中選手とマスコットをだくアンドリッ嬢



観戦する左より根上専務理事、津島体協会長、高石会長



日、豪技術交換会風景 左より川田常務理事、ウッド、アンドリッ、パーティー、ウインドル、ディクソン、タイラ監督、安部名誉主事、（プリンス・ホテルにて）



日、豪技術交換会における豪州選手の子備運動の実演（プリンス・ホテルにて）

日本競泳史上男子100傑 (8)

(昭和36年3月25日現在)

◎左肩に(日)とあるは当時の日本記録, (長世)とあるは長水路世界最高記録。

◎順位は同記録のものは同位とした。ただし同記録を2回出したものはその上位とした。

◎記録のところに②とあるは最高記録を2回出したもの, 表には先に出した記録のみを記した。

◎次回は女子100m バタフライの予定。

200m バタフライ

順位	氏名	所属	時間	年齢	場所	年月日	大会名
(日) 1	那須純哉	日本	2:17.8	(19)	大阪	34-7-26	日米大阪
	吉無田春男	稲泳会	2:17.8	(20)	神宮	35-7-24	日本選手権
3	井筒賢造	"	2:18.9	(19)	"	"	"
(長世) 4	石本隆	日大	2:19.6②	(21)	"	31-9-7	日本学生
5	開田幸一	中大	2:20.2	(22)	"	35-6-19	日大対中大
6	増永文昭	日本	2:20.5	(19)	大阪	33-8-23	日豪大阪
7	佐藤好助	熊本県	2:20.7	(18)	熊本	35-9-25	国体高校
8	中島功	日大	2:22.4	(19)	神宮	35-9-10	日本学生
9	三好恭弘	白水会	2:22.5	(19)	"	35-7-24	日本選手権
10	須藤洋一	明大	2:22.9	(19)	"	35-9-10	日本学生
11	田中英雄	岩国高	2:23.6②	(18)	呉二河	35-7-31	中国高校
12	丸山高正	BSタイヤ	2:23.8	(21)	神宮	35-7-24	日本選手権
13	長島務	明大	2:24.2	(21)	"	33-9-6	日本学生
14	富田紀久男	日大	2:24.5	(20)	"	35-6-12	三大学対抗
15	上田紀男	法政大	2:24.9	(19)	"	35-9-10	日本学生
16	岩本光司	京都府	2:25.4	(17)	"	34-9-21	国体高校
17	武市啓志	高知商	2:25.7	(17)	高知	33-8-22	日本高校
18	長沢二郎	稲泳会	2:26.4	(24)	神宮	31-9-5	オリンピック予
19	渡辺春男	千葉県	2:26.7	(18)	熊本	35-9-25	国体高校
20	俵口頼康	明大	2:27.0	(19)	神宮	33-9-6	日本学生
21	富安守弘	中大	2:27.1	(18)	"	35-6-19	日大対中大
22	馬場政義	兵庫県	2:27.3	(18)	熊本	35-9-25	国体高校
23	金親義弘	大阪府	2:27.5	(17)	"	35-9-24	"
24	吉田弘	早大	2:27.6	(20)	振甫	34-7-4	早大対愛知
25	坂井逸次	"	2:27.9	(22)	神宮	34-9-12	日本学生
26	水野信正	法政二高	2:28.3	(16)	"	35-8-20	日本高校
27	来栖寛	天理大	2:28.4	(19)	大阪	35-8-28	関西学生
28	鈴木竜蔵	中大	2:28.5	(19)	神宮	35-9-10	日本学生

(27)

目次に戻る

29	青木洋一	専修大	2:28.6	(19)	神宮	35-9-3	関東学生
30	毛越清	臼杵高	2:28.9	(17)	浜松	34-8-22	日本高校
	赤毛秀次	広島県	2:28.9	(18)	熊本	35-9-25	国体高校
32	小島英光	法政大	2:29.0	(19)	神宮	33-9-5	日本学生
33	岩岡祐一	D S C	2:29.2	(19)	大阪	35-7-3	大阪選手権
34	神崎忠一	岡山県	2:29.3	(18)	熊本	35-9-25	国体高校
35	長谷川浩造	八幡製鉄	2:29.6	(20)	大阪	34-8-30	全国勤労者
36	松尾求	国士館大	2:29.7	(19)	神宮	35-7-22	日本選手権
37	富田幸人	"	2:29.8	(18)	"	"	"
38	中村征春	伊都高	2:30.2	(17)	大阪	35-8-6	近畿高校
39	小我紀一	中大	2:30.4	(19)	神宮	35-6-19	日大対中大
40	大賀陸郎	熊本県	2:30.7	(16)	熊本	35-9-24	国体高校
41	芥川己之助	浜北高	2:30.8	(18)	振甫	34-8-10	中部高校
42	丹羽勝治	法政二高	2:30.9	(17)	宇都宮	34-8-9	関東高校
43	岡村久治	BSタイヤ	2:31.1	(19)	大阪	34-8-30	全国勤労者
44	渡辺常也	中大	2:31.2	(18)	神宮	33-9-6	日本学生
45	中村正治	浜松商	2:31.4	(17)	高知	33-8-24	日本高校
	乾野正之	桜宮中	2:31.4	(15)	布施	34-8-30	全国通信
	井上敦雄	日大豊山	2:31.4	(18)	神宮	35-8-24	国体東京
48	田中誠也	八幡製鉄	2:31.8	(21)	高岡	35-8-21	全国勤労者
49	宮脇隆史	法政大	2:32.0	(20)	神宮	34-9-11	日本学生
	杉本紘一	法政二高	2:32.0	(17)	鎌倉	35-9-4	国体神奈川
51	水野隆晴	小牧高	2:32.2	(17)	岐阜	35-8-2	中部高校
52	下江優	広島県	2:32.4	(17)	神宮	34-9-21	国体高校
	柳井清	臼杵高	2:32.4	(18)	別府	35-8-30	国体大分
54	丸谷良介	天王寺高	2:32.5②	(17)	大阪	34-8-1	大阪高校
55	山下勝次	稲泳会	2:32.5	(21)	神宮	31-8-11	日本選手権
56	安井清雄	上宮高	2:32.7	(18)	大阪	35-8-6	近畿高校
57	竹田士郎	関学大	2:32.8	(21)	"	33-8-31	関西学生
	飯田智康	法政大	2:32.8	(19)	神宮	35-9-9	日本学生
59	箕原友義	桜泳会	2:33.0	(19)	"	31-8-10	日本選手権
	伴国雄	中京商	2:33.0	(16)	振甫	35-9-4	国体愛知
61	小宮二三夫	安房水産	2:33.1	(17)	神宮	32-8-23	日本高校
62	金城孝彦	中京商高	2:33.2②	(18)	振甫	34-8-10	中部高校
63	古川治一郎	宇部興産	2:33.5	(20)	大阪	34-8-30	全国勤労者
64	近藤正博	明大	2:33.6	(19)	神宮	35-9-9	日本学生
65	村上国広	三潞高	2:33.8	(17)	高知	33-8-22	日本高校
66	森正進	中大	2:34.0	(20)	神宮	31-9-8	日本学生
67	田所善五朗	"	2:34.2	(21)	"	"	"

67	佐藤邦雄	福島県	2:34.2	(17)	熊本	35-9-24	国体高校
69	若井英雄	茨城県	2:34.3	(18)	"	"	"
	遠藤英康	日大豊山	2:34.3	(17)	都屋内	35-10-9	都高新人
71	安岡信雄	日大	2:34.4	(23)	神宮	29-9-11	日本学生
	新井沐	天理高	2:34.4	(17)	大阪	35-8-6	近畿高校
(日) 73	古川勝	橋本高	2:34.6	(16)	天理	27-8-24	東西高校
	関誠四郎	浜北高	2:34.6	(17)	浜松	34-8-21	日本高校
75	藤家衛	日本	2:34.7	(21)	大阪	29-8-18	大阪国際
76	松田磨	佐伯鶴城	2:34.8	(16)	大分	35-9-11	大分選手権
77	馬場満男	修道中	2:35.4	(14)	呉二河	34-8-30	全国通信
78	山下修	慶大	2:35.5	(23)	神宮	32-9-7	日本学生
79	西田博喜	宇部興産	2:35.6	(18)	野沢	33-8-30	全国勤労者
80	伊達英則	駿台ク	2:35.8	(19)	神宮	30-7-24	日本選手権
	竹本克彦	法政大	2:35.8	(20)	"	33-8-31	関東学生
82	藤井博	香川県	2:35.9	(21)	熊本	35-9-26	国体青年
83	福本雅夫	五条高	2:36.2	(17)	大阪	35-6-25	関西選手権
84	牧本日吉	法政大	2:36.3	(18)	神宮	33-9-5	日本学生
85	磯部昇	浜松農工	2:36.5	(17)	振甫	34-8-10	中部高校
86	森永健一	八幡製鉄	2:36.9	(19)	石橋	35-7-10	福岡記録会
(日) 87	山本正雄	日大	2:37.0	(19)	神宮	26-9-15	日本学生
	吉岡三博	立命大	2:37.0	(20)	西京極	35-7-10	京都学生
	中村康博	鳥取県	2:37.0	(18)	熊本	35-9-24	国体高校
90	福田広巳	臼杵高	2:37.1	(16)	臼杵	34-6-21	大分県予選
91	東山充	明大	2:37.2	(21)	神宮	30-9-10	日本学生
	宇留間光吉	天理大	2:37.2	(19)	大阪	32-9-1	関西学生
	川野正人	佐伯鶴城	2:37.2	(17)	臼杵	34-8-30	国体大分
	山田光一	日大	2:37.2	(22)	神宮	35-9-9	日本学生
95	梶川孝義	日本	2:37.4	(17)	ヘルシンキ	27-8-1	オリンピック
96	平山綽保	"	2:37.4	(19)	"	27-8-2	"
	田中守	早大	2:37.4	(19)	神宮	27-9-13	日本学生
	太田一郎	桜泳会	2:37.4	(19)	"	31-8-10	日本選手権
	林正友	天理高	2:37.4	(17)	大阪	35-6-25	関西選手権
	小池康雄	長崎県	2:37.4	(17)	熊本	35-9-24	国体高校

高石新会長を語る

去る1月末の全国代議員会で、高石新会長が挨拶の言葉を述べたとき、顧問評議員席にいた杉本伝氏の顔は、他の人々にはみられない一層の喜びといつくしみの色が濃かったように思われた。それもそのはずで、新会長は杉本氏の昔の教え子であるからである。水泳選手としてかつては世界的名声を博した高石選手は、杉本先生の手によって育てられたのであるが、高石選手の名とともに大阪茨木中学の名は、水泳を通して日本じゅうに知られるようになったのである。

大正6年(1917年)にできあがった茨木中学の近代式プールは、日本では初めてのものであった。学校の近くを流れている茨木川の水を取り入れたこのプールで、近代競泳々法をコーチされた少年たちは、その後すくすくと成長し、1921年の夏には、伊豆の戸田における東京帝大の水泳大会で、東都の強豪選手を負かして、団体対抗に連勝してしまった。このとき高石少年選手が、入谷、石田その他の選手とともに活躍したことはいうまでもない。800mに優勝、1500mと100m背泳に各3着、リレーも泳いでいるから、たいへんな働らきかたであった。そしてこのときに、後日世界的選手として雄飛する兆しを早くも示したのであった。

このときの大会のエピソードとして、こんにちまで残っている伝説的のものは、茨木中学の少年たちを、棧橋から船へ乗せるために、大学水泳部の先輩や大学生が、少年の体を抱きあげて手から手へ移したというのであるが、そのなかで高石少年は、体も小さかったので、ホイホイとほろり渡されたというのである。先年亡くなった斎藤武五郎さんもそのようなことを口にしていたから、この話はすこしは真実性があるかもしれない。いつか新会長に、このときの思い出を語ってもらおう。

大正13年(1924年)のパリのオリンピック大会で、100mと1500mに各5着、800mリレーに日本チームとして4着、こえて昭和3年(1928年)のアムステルダムオリンピック大会には、100mで3着にはいり、リレーには2着となったことについては、すでに各方面で紹介されているから、ここには重ねて詳しくはいわないことにする。ただ大正12年(1923年)の大阪における極東大

会に440ヤード(5分39秒6)と1マイル(24分50秒2)で輝かしい優勝をしたことは、もういまでは忘れられている向きが多いので、念のために記しておかなければならない。

大正15年(1926年)に高石氏は、自由形の100m、200m、400m、800m、1500m、と全種目の日本記録保持者になって、世の中を驚かしたが、この記録は、山中選手が再びみせるまでは、日本の最高成績であった。高石氏は山中選手を北陸の地から見出し、その育ての親となったのだから、全種目一手引受けというこの因縁も、なかなか深いものといわなければなるまい。氏のクロールは、優美というよりも雄渾な泳ぎであった。1ストロークの途中で1回大きく開く両足のビート、利き腕の一掻きを強くするかとさえ思われた息を吸うための頭部の振り向きは、いずれもその大きな特徴であった。クルクルと力いっぱい頭部の振りは、いつになっても忘れられないものである。

いま東京の新宿区馬場下町の早稲田大学文学部敷地内にある25mプールは、大正時代の終りごろから昭和の初めにかけて、世界水泳界に活躍した高石選手の功績をたたえるために、30余年前に造られた高石記念プールであるが、ここには当時の世界の名手であったジョニー・ワイズミュラーも来て泳いだことがある。

氏は昭和5年早大商学部を卒業後は関西の実業界で活躍し、大阪製鋼所専務取締役、近畿産業株式会社々長の要職にあっても、年来の水泳に対する情熱を燃しつづけて、いまなお水泳のことといえば日本全国を飛びまわっている。クルクルと振りまわしていたその髪は、いまや白銀の美しいものと変って、中老紳士の重々しさをいやがうえにも重くしている。東京オリンピックを迎えてのその意気どみは、正に天を衝くようで、その積極政策はなにものをも貫ぬかねばやまないようにさえ思えるほどである。

なお終りにつけ加えるならば峰子夫人は、往年の自由形選手で、200m、400mの日本記録保持者であったし、令息の勝君は、学生庭球選手として知られたひとであった。(X・Y・Z)

女子水泳の前進のために

梶山女学園水泳クラブ

奥 平 幸 夫

○第3回室内選手権の教訓から

4月1, 2日東京室内プールにおける大会をまのあたり
みることができ、私は私なりの教訓を得ました。

特に豪州の2人の17歳の女子選手のレースを見せても
らって感じたままを一つ二つ。

結論的にいえば、日本の女子選手の体格とくらべて、
格段の差のあることでした。オリンピックから帰った人
達から話には聞いていても、実際目の前に比較する機会
が得られて女子の場合「水泳以前」ということをほん
とろに感じました。

豪州の両名はパーティアーが1m73cm, 72kg, アン
ドリューが, 1m67cm, 59kgと優れた体格であり、体
力もどのように鍛えられたか、細かいことはわからない
にしても、ビート、掻き手などの力づよさを見て、ただ
その力の差の大きいのに歎息するばかりでした。日本の
女子がこの両選手に比較して、最近体格体力共に非常な
向上をしめしているというものの一線級選手が平均身長
160cm, 体重60kg 前後であると推定して、身長で10cm
体重で5kgの差と考えられます。

しかしオリンピックで活躍し入賞した、前畑、小島、
田中などの選手も生れているのだから、絶対的悲観論ば
かりする必要もないかもしれません。

東京オリンピックという確たる目標を持つわれわれと
しては、先ず当面の課題としては外国選手に少しでも近
い体格を持つ選手、つまり身長165cm以上、乃至は将
来之れに達する可能性のある選手を目標として行かねば
ならないと思いました。勿論身長と体重だけの簡単なも
ので、その育成の目標にはなりません、少くともこれ
らは最も手近かな基本的条件であることを、私は実感と
して持ちました。例えば女子自由形の日本選手を挙げて
見ても、芝原、窪、江坂、大岩、殿上、虎野、と恐らく
160cm以上のものばかりでした。将来外国選手に對等に
挑むためにはどうしても、今の日本の女子選手の体格、
体力を上廻るものを育成して行かなければならないとい
う、一般論を否定することはできないと感じた次第で
す。

○日本水連の現執行部への要望

東京オリンピックを目標とする日本水連の体制が、私
の最も尊敬する高石会長を中心として発足したことは、
ほんとうに喜びに堪えません。しかし、ここで卒直に申
しあげたいことは、一日も速かにその体制が機構の上か
ら、人的結合の点からも、また運営方針という点から
も、強力に統一されたものになっていただきたいと熱望
するものであります。

会長、専務理事、強化本部長、強化委員長などの各位
が、十分なる思想的統一を計られて、日本水連の指導方
針が、強力な一本化したものになることが絶対に要請さ
れると思います。そして全国に散在する選手と毎日その
選手を育成しつつある全コーチ陣に、日本水連の意図す
るものが、強力に徹底的にしんとすることが必要だと思
います。

今度の東京における中・高生の中央合宿に参加して、
その点発足間もない現執行部に、そうした要望をする事
が無理なことであるかとは思いましたが、なにはさてお
いても、緊急、重要な課題であることを痛感いたしました
ので一言申し上げたいと思います。

現執行部の方は、選手とコーチ（現場を担当する）に
今一段の限りない愛情を注いでいただき度いと思ってお
ります。

選手の中央合宿も大切でしょうが、コーチの中央合宿
が先ず第一に取上げられなければならないと思います。
なぜなら選手を育成している人はコーチですから。

○梶山女学園の水泳クラブ

運営についての試み

こんなことを、ここで申上げるのは僭越かと思いま
すが、この試みが今後2, 3年後にどういふ結果を生みだ
して来るかという、1つの課題を提供する意味におい
て、皆さまに御報告しておきたいと思います。

そうした点で御宥怒下さいますように。私の学園で
は、この4月15日に現在のプール（25m 6コース）の外
（以下42頁に続く）

全 国 理 事 会 議 事 録

日 時 昭和36年1月28日(土)
場 所 丸の内会館

議 事

1. 報告事項(小出専務理事)

1) 昭和35年度事業概要(別紙)

下記順序に従い報告した。

(一) 競技会

(二) 選手強化事業

強化合宿練習, 合同練習, 水泳教室, 全国ジュニア指導会, 地方講習会に講師派遣

(三) 選手海外派遣

ローマオリンピックに選手団派遣

(四) 指導普及事業

(五) 建設測定事業

プール公認, 45, 標準プール公認17

(六) 記録発表

世界記録, 日本記録, 日本新記録, 競泳50傑, 高校中学30傑, 飛込10傑その他

(七) 諸会議の開催

代議員会2, 在京代議員会2, 全国理事会3, 常務理事会25, 競泳委員会18, 飛込委員会7, 水球委員会14, シンクロ6, 施設4, 日本泳法5, 記録4, 編集6, 学生関係37, オリンピック関係13
その28

(八) 他, 刊行物発行

機関誌「水泳」130, 131, 132, 133, 134, 135,
136号主要競技会要項

(九) 映画製作指導

共同テレビ「目で見る水泳教室」「みんなで泳ごう」

2) 競泳委員会関係(小柳常務理事)

1月7日から9日まで日本青年会館において、「東京オリンピック強化コーチ研究会」という名目のもとに地方の第一線指導者68名が参集し講習会を開催した。研究会のねらいは、科学的な裏付を与えること、一貫した指導方針を確立することにおき、特に専門家を招き

(一) 疲労について

(二) インターバル練習法について

(三) サークットトレーニングについて

の三点につき講義して頂いた。会は非常に成果があったものとする。

なお, 中高校生も東京に集め強化合宿を行った。

瀬川理事より中高校生の合宿には肺活量, 身長, 体重等のデータをとるべき旨の提案があり高木理事より, 中央での合宿よりも今後は地方での合宿練習を計画すべき旨提案, 夫々考慮することとした。

3) 外国関係(安部名誉主事)

(一) 12月の全国理事会での発言中一部訂正する旨報告。FINA理事会の決定中男子100m背泳は200m背泳に変更されたが女子の背泳は従前通り100m背泳で変更されない。

(二) その後の情報によれば米国オリンピック委員会より, ローマでの男子100m自由形決勝のラソンの記録は確かに55.1を出した筈なのに55.2となっているのはおかしいとの抗義が出る模様である。今後何らかの処置をとる必要がある。

(三) FINAのオフィシャル, プレタンは現在印刷中であるので近く配付できる見込。

(四) オリンピック審判は今後機械審判の重要性が倍加した。現在写真と音響による測定方法につき鋭意検討中である。

(五) 最近豪州水連から37年1月豪州において、日本と米国のチームを招き三国対抗大会を開きたい旨招聘があった。(自2, 特種目各1, マネジャー1, 計6) 日本の場合はオフシーズンであること試験期であることに問題があるが、今後検討致したい。

4) 強化整備小委員会関係(小出専務理事)

去る1月14日東京において東京オリンピック選手強化対策のための整備小委員会を開催した。会長を初め新執行部の交代前のため細部の点については触れなかったが、考え方の大筋としては、「現在の体制はいわば平時体制である。東京大会を完遂するためには、戦時体制にし強力な実行力を持つ人を委員長とし強化本部をつくる必要がある。その中に各専門の常任委員会をおき企画, 実行の責任を持つ。各ブロックにはこれに対応する地方強化委員会をつく

る。そして、中央、地方の意思の疎通をはかる。現在の執行部体制との関係は実際に担当する人が重複して担当、スムーズにやりたい。要旨以上の考え方に基き運営することにしてはどうかということであるが、この考え方を新執行部に答申して引継ぎ具体的に実行に移すことになる。

5) 会長推薦委員会関係(小出専務理事)

かねてからの決定により1月15日18名が東京に合し11時間にわたって論議した結果、この際挙国一致のもとに推進することを前提とし、全会一致のもとに高石勝男氏を次期会長に推薦することとした。更に16日野村、西本、藤田、奥野四氏の斡旋で田畑樋口、高石の三者会談が開かれ挙国一致体制のもと新会長を確認した。

6) 国体準備状況

2月7、8両日文部省、各府県体育主管課長と体協選手強化本部常任委員との間で懇談会が開催されるが、要望事項があれば提案致したいから代議員会に報告願いたい。

2. 協議事項

1) 昭和35年度会計決算書(案)(別紙)について

志村会計理事より別紙案につき事項、費目別に説明原案通り承認された。

高木理事より予算に比し加盟分担金の納入が悪いが各団体は履行に誠意が足りないように見受けられる。今後厳重に履行を督促すべき旨提言し了承した。

2) 昭和36年度会計予算書(案)別紙について

別紙案により経常費、事業費、強化費、繰越費の

各費目別につき説明、各理事より特に東京大会を繰え人件費の増額を期すること、及び強化費の計上内容等につき質疑があったが、細部については新執行部に委せるとの含みで原案通り承認された。

3) 昭和36年度行事日程(案)一別紙—

大きな変化を見た点は、従来迄はインカレが9月に開かれそれにより水連の行事も固定化していたが東京大会を控え組替を検討した結果、主体は学生、中、高校生が対象となるので、7月8月にかけ最も理想的な競技会が持てるように計画した次第である。また通信競技も早い時期に行い水泳教室、ジュニア指導会と結びつけるように考えた。東京大会は現在の処6月~7月が予定されているので7月末に日本選手権大会とした。以上の説明に対し、福岡、熊本大阪各選出理事より、日本選手権大会、インターハイ、ジュニアの開催期日につき夫々具体的意見が出され、水連本部の日程小委員会の作成した本日程案ではにわかには賛成しがたい旨発言があったので、協議した結果、本理事会終了後直ちに各地方ブロック代表理事を加へた小委員会を開き本部案との調整を協議することとした。

なお、さきに神奈川県水連より日本選手権大会出場資格に関連し、Aクラスに変更方提案があったが、この際加盟団体にABCの区分をすることなく、地方予選からの出場資格を一律にし記録的には標準記録を設け差別をなくすべきではないかということであったが、最終的には代議員会で決定することとした。

昭和36年度定例代議員会議事録

日 時 昭和36年1月29日(日) 午前10時開会

場 所 丸ビル精養軒

出席者 加盟51団体中 45団体出席

議 事

会長挨拶

御多用中御参会願ひ感謝に堪えない。議事日程に従い御分御審議頂きたい。

1. 報告事項(小出専務理事)

本日は役員改選もあり、東京大会への強化体制を確立する重要な事項もあるので報告事項は簡略に致した

いから御了承願いたい。

1) 昭和36年度事業概要(別紙)

別紙事業概要に従い説明、報告す。

(一) 競技会 4月の室内大会以降9月の国体に至る迄の経過。

(二) 選手強化事業 競泳、水球、飛込の中央、地方を通じた強化合宿練習につき報告。水泳教室、全国ジュニア指導会等。

(三) 選手海外派遣 主としてローマ大会の報告。不成績の一番の原因は強力チームができなかったこと、一部の選手は人を頼る傾向があり、また気はくくの点に欠ける憾みがあったこと。調子が早く出過ぎたことは村入りが早かったことに原因がある。

- 四) 建設測定事業
- 五) 指導普及事業
- 六) 記録発表
- 七) 刊行物発行

2) 東京オリンピック選手強化整備小委員会

1月14日関係者が参集し協議した結果、考え方の大筋としては東京大会を乗り切るためには、水連の組織を戦時体制にし、挙国一致体制にする必要がある。本部には強化本部を置き、その下に各専門毎の強化委員会を設け地方にもブロック別（必ずしも8ブロックにこだわらない）の強化組織委員会をつくり中央、地方を通じた強化体制を整備する。

大要以上の通りである。

3) 会長推薦委員会

1月15日関係者が参集し11時間にわたって論議したが、東京大会を完勝する目的を達成するためには水連の持てる総力を結集する要があり、このためいわゆる挙国一致体制のもとに推進する前提のもとに全会一致をもって高石勝男氏を推薦することに決定した。翌16日高石、田畑、樋口三氏による三者会談が野村氏ほか三氏の斡旋で開かれ会長推薦に当り以上の如き総力を結集することが確認された。

2. 協議事項

1) 昭和35年度会計決算（案）について（志村会計理事）

経常費のうち加盟分担金は本日納入済の団体があったので略予算とおりとなった。

事業費のうち通信競技の支出117万円余については35年度より各開催地に補助金を支出したため、予算額より大幅増となった。

オリンピック関係経費は特に特別会計勘定を設けた。以上の説明、報告につき原案通り承認された。

2) 昭和36年度会計予算（案）について

事業費 青少年関係、水泳教室、ジュニア、通信競技等を重点的に増額した。

強化費 体協からの補助金の枠の関係で変更することがある。申請は1,800万円を計上したが、一応前年度の実績を勘案し1,200万円を計上した。

3) 以上につき原案通り承認された。

外国関係（安部名誉主事）

12月4日の全国理事会の席上報告したFINA関係事項中下記の通り一部訂正するから了承を乞う。

オリンピック種目中背泳は男女とも100mが200mに変更したと報告したが、これは男子だけが、200m背泳と変り、女子については従来通り100mである。

4) 昭和36年度行事日程（案）について（小出専務理事）

昨日全国理事会終了後各ブロックの代表理事も含め日程小委員会を開き協議した結果、全日本、高校大会、その他二、三の競技会につき意見、疑義も出たが、本部原案通り了承を得た。

日程原案を作成するに当っては、東京大会を乗り切るためには高、中生に重点を置く要があるので、東京大会開催期日ともならみ合わせ、原案を作成した旨説明した。なお、勝村常務理事より別紙日程案中一部訂正を要する事項につき説明があり結局原案通り承認された。

なお、山中君の北陸三県での56.0は追加公認した旨報告された。

3. 国体開催について

本年度主催市である会津若松市当局者より挨拶があった。

4. 役員改選について

樋口会長より過日開催された会長推薦委員会の決定により次期会長に高石勝男氏を推薦したが、本件は代議員会の決定事項であるから御参会の各位全員一致の御賛同を頂きたい旨挨拶があった。（拍手）

なお従来までの各位の御協力に対し感謝する旨発言があった。これにより次期会長に高石勝男氏が就任されることに決定した。

高石新会長挨拶

今般各位の御推薦を受け会長の重任に就くことになったが、水泳人として感激の極わみに堪えない。東京大会を控え職責の重大さを痛感している。世界水泳界の趨勢は、高度に進歩、発達しておりこの情勢に対処してゆくためにはどうすればよいか、非常に困難な問題が多い。私としては、水連の中央部の行政事務はもち論経験がないが、御推薦を受けた以上は自分なりに全力を傾け努力致したい。今後とも各位の御協力、御叱声を頂き共々に日本水泳界の発展に尽したい。われわれ水泳人の願うところはもち論一つであり、目標として到達すべきところは同じである以上、水連一致の体制をもって御協力願いたい。樋口前会長以下のスタッフ各位の従来までの御努力に対しては衷心より感謝の意を表する次第である。

× ×

次いで新理事各専門委員長等の改選のため別室にて理事会を開催することになったのでこの間（1時～2時）休憩。～2時再開～

田畑前会長挨拶（東京大会組織委員会事務総長）

東京大会開催の経緯、開催時期等につき説明がありその運営もさることながら選手自体の活躍如何が成否につながるので水泳の活躍には大いに期待するものがある。その意味で今回高石会長以下新スタッフが打って一丸となり東京大会のためスタートしたことは洵に意義が深い。組織委員会としても力強く感じているのでできるだけ協力致したい。

高石会長より新執行部以下の役員が発表された。

名誉主事 安部 輝太郎

専務理事 根上 博

会計理事 伊藤 謹平

強化対策本部長 小池 礼三

強化対策本部

財務担当理事 志村 文一郎

理事定数は各ブロック、各専門部会毎に決められているので追って決定する。

常務理事

（ブロック選出）

北海道地区選出	根上 博
東北 //	吉田 勝平
関東 //	勝村 肇
中部 //	小池 礼三
近畿 //	木村 象雷
中国 //	芦田 拓郎
四国 //	遊佐 正憲
九州 //	村上 勝芳（以上8名）

（学生会選出）

部会長	奥野 良
名誉主事	赤楳 卓爾
名誉会計	古橋 広之進
	千頭 衛
	塚田 遙（以上5名）

（各専門委員会選出）

高体連	菊池 章
競泳委員会	村上 勝芳
//	小柳 清志
//	南 佳恵
//	鈴木 茂二郎
//	竹林寺 文雄
//	山田 芳美
//	福山 信義

飛込委員会 柴原 恒雄

水球 // 鷲田 武

普及 // 宮畑 虎彦

日本泳法 // 小林 高志

シンクロ // 白山 源三郎

記録 // 伊丹 康夫

編集 // 栗村 中丸

施設 // 深谷 俊明

医事 // 鞆田 幸徳

近代五種 // 中野 太郎

外国 // 川田 友之

総務 // 勝村 肇

// 小野 四郎（以上21名）

（会長指名）

太田 光雄

田口 正治（以上2名）

高石会長より

新役員が発表されたがよろしく協力願いたい。東京大会を完勝するため相共々勝利の喜びにひたりたいと思う。栄枯盛衰は世のならいとは言へ各加盟国体が本当に自分の団体から何人かの選手を出すという意気込でお願いしたい。後3年あるという生ぬない考えでは乗り切れない。3年をもっと身近かに感じ即刻その準備に邁進の要がある。豪州にしても多くの選手は持っていない。第一線選手を数名持てばよいのではないか。私共のこれからのすべては選手の育成強化にある。これがためには全国的な強化組織を一日も早くつくる要がある。その準備体制を今からつくりたい。今後も全国を廻り強化に邁進したいと思うから御協力願いたい。

小池強化対策本部長より

地方加盟国体の各位の御協力を頂きたい。東京大会のため全力を尽したい。今後の強化は年間を通じいつ如何なる場合でも強化練習をやっているというように致したい。

5. 質疑希望事項等

重松代議員より

地方は優秀なコーチが得られないので、今後は学生部会の大学以上の選手の模範的な泳ぎを見せ進歩に資するように計画せよ、数組のコーチをどこでも派遣できるよう学生部会で善処してほしい。

広島県代議員

地方強化合宿の補助は県単位とするよう考慮してほしい。

根上専務理事より

選手強化に予算化している府県もある。これらの

実情も調査の上善処したい。東京大会のため県費から予算化するよう夫々働きかけることも必要である。なお、水連としては、ターニングの問題が懸案と

なっていたが、代議員会においても、早急にサマソールトターンに統一するよう提案があったのでこれが常識となるよう強化委員会で検討することとした。

臨時全国理事会議事録

日 時 昭和36年1月29日(日) 13時~14時

場 所 丸ビル精養軒会議室

注：同日午前10時より開催された全国議員会の審議途中新役員改選のため特に開かれたもの。

議事経過要旨

会長には午前中開かれた代議員会において講場一致をもって高石勝男氏が選任された。

高石会長挨拶

御承知のとおり代議員会において私が会長に選ばれたが、全力を傾注して事に当りたい。これから理事その他の役員が指名されるが、東京大会を完勝するため指名された各位は御協力頂きたい。

選出方法は会長に御一任願いたい。~承認さる。

会長より新役員が下記のとおり指名された。

名誉主事 安部 輝太郎

専務理事 根上 博

会計理事 伊藤 謹平

強化対策本部長 小池 礼三

同对本財務担当理事 志村 文一郎

以上の役員の名に對し根上、伊藤、小池、志村各氏より夫々就任の挨拶があった。次いで常務理事として

1. 各加盟団体推薦

北海道地区 根上 博

東北 " 吉田 勝平

関東 " 勝村 肇

中部 " 小池 礼三

近畿 " 木村 象雷

中国 " 芦田 拓郎

四国 " 遊佐 正憲

九州 " 村上 勝芳

2. 学生部会

部会長 奥野 良

名誉主事 赤 檜 卓爾

名誉会計 古 橋 広之進

千 頭 衛

塚 田 遙

3. 高等学校体育連盟 菊池 章

4. 各専門委員会関係

総 務 小 野 四 郎

外 国 川 田 友 之

競 泳 村 上 勝 芳

小 柳 清 志

南 佳 恵

鈴 木 茂 二 朗

竹 林 寺 文 雄

福 山 信 義

飛 込 柴 原 恒 雄

水 球 鷗 田 武

普 及 宮 畑 虎 彦

日本泳法 小 林 高 志

シンクロ 白 山 源 三 郎

記 録 伊 丹 康 夫

編 集 栗 村 中 丸

医 事 柄 田 幸 徳

施 設 深 谷 俊 明

近代五種 中 野 太 郎

5. 会長推薦

太 田 光 雄

田 口 正 治

なお、理事は各団体、専門委員会毎に夫々定数があるので追って決定のこととした。また各専門委員会の委員会名簿は早急に決定の上報告することとした。常務理事会の構成が決定したので、1月31日第1回常務理事会を開催することとした。

小出前専務理事、志村前会計理事より夫々離任の挨拶があった後、会長より両氏に是非常務理事として今後とも水連に残り協力されたい旨発言があったが、両氏とも勤務先の都合もあり固辞されたので、両氏は評議員として水連のため尽されることとなった。以上

なお、全国理事会を室内選手権大会頃開催することとした。

在京代議員会兼全国理事会議事録

日 時 昭和36年4月1日(土)
場 所 日本青年館会議室
出席者 加盟51団体中37団体出席せるをもつて成立す

議 事 要 旨

1. 会 長 挨拶

本日から開催されている室内選手権大会を機会に本会議を開催したところ多数御出席願ひ感謝に堪えない次第である。1月の代議員会で私共スタッフが水連をお預りすることになったが、現在多少軌道に乗ったとは言え何ぶんにも早々なため諸事不行届もあると思うがお許し頂きたい。「先ず手初めに強化組織を主として手がけたが、各ブロック、各加盟国体毎に立派な組織が出来たことは同慶の至りである。今後十分に活動し強化の実をあげたい。これがため強化に必要な資金を得るため今般財務委員会を結成し奥村会長以下11名の方々にお願いした次第である。同様関西にも考えているが、取りあへずは東京大会迄の資金面を担当願うこととしている。(今後の水連の仕事の殆んどは選手強化と考えるものであるが、これに対処して中学生に関する次官通達の問題は先般来より文部省当局と折衝し現在明るい見透しを得ていることを喜んでいる。また選手強化の一方法として大学生、高校生といわず出来れば中学生迄外国交派を図りこれら選手に国際レースの経験を持たせたい。

現行規約は施行後相当時日を経過しており改正の必要があるので奥野常務理事を中心に検討中である。顧問、評議員の役員任期の件も現在小委員会をつくり検討中である。

最後に各加盟団体より一人でも東京大会の代表選手を出すよう折角御協力頂きたい。

2. 報告事項(根上専務理事)

1) 規約改正小委員会の件

現在奥野常務理事を小委員長とし検討中であるが夏の代議員会には大体の案を発表、明年1月の代議員会には原案をお諮りしたい。

2) 顧問、評議員等に関する制度研究小委員会の件

会長より説明があったように検討することとしたが、小委員には、野村、西本、樋口、松沢、小林、児玉、高木、藤田の諸氏に会長と専務理事が加

わり協議する。

3) 水連新機構の件

新発足した水連新機構は従来機構と異り複雑化しているため別表の如く図表を作成したからこれにより御承知頂きたい。

4) 強化本部関係(小池本部長)

2月22日第1回本部会を開き大体室内大会をはさみ春期の強化合宿を実施することを決定した。3月31日第2回会合を持ち今後の強化計画を決めた。東京大会までの指針としては、36年度は有望選手の発掘、37年度は有望選手の発掘に併行して準英才教育を行う。38年度は英才教育の徹底を明し、39年度を迎えることとしたい。更に東京大会のため若い強力なチームをつくるため強化の対象に現在の中学3年生を最低線に置き(有望なもの1、2年も対象におく)強化を期したい。

36年度の強化費は組織委の強化対策本部を通じ交付される補助会が目下の処競泳、飛込分として、1,600万円、水球200万円、財務委員会募会分として1,200万円合計3,000万円である。

なおこれが配分計画としては、飛込200万円、水球200万円、スポーツ科学100万円、ジュニア指導会150万円、水泳教室300万円、コーチ巡回指導300万円、F I S 400万円、中央強化合宿350万円、学生会部強化100万円、地方ブロック強化に900万円となっている。地方ブロック分の配分は3月31日の本部会において協議した結果、従来の実績7割、3割均等割とし、北海道30万、東北40万、関東150万、中部170万、近畿170万、中国100万、四国90万、九州160万円となった。

次に36年度国際交流行事計画としては、現在豪州チーム6名を招聘しているほか、F I Sに競泳、飛込で11名、水球(欧州遠征)12名、のほかに水球コーチの招聘、アメリカ選手(9名)の招聘、女子選手の比国へ派遣(18名)、その他高校生のアメリカ(全米大会)派遣、コーチの米、豪への派遣(各1名)を計画しており、また豪州水連招聘に係る日、

米、豪三国親善競技会（37年1月頃の予定）があるがこれは学生の試験期の関係もあるので検討中である。

中学生県外試合の制限解除の問題は水連より一応要望書を提出し現在文部省において検討中の段階にあるが、水連としては名実ともに解除されるよう希望している。

5) F I S 関係（太田常務理事）

ブルガリヤのソフィヤで行われる F I S 大会は東京大会の強化の一環としてチームを派遣するが、日程は8月19日出発、水球は同25日から29日迄大会があり、欧州を廻り9月13日迄に帰国の予定である。

6) 体協、J O C 関係

経過の詳細は水連会議議事録に掲載されているが体協理事には今般高石会長が選任され、J O C 常任委員には根上専務理事が就任した。

7) 外国関係及び各委員会関係（安部名誉主事）

ア 豪州招聘の件は今回実現した。

イ ハンガリーのライキ氏招聘の件は都合で変更し本年10月以降となる模様である。

ウ 高校生等若手選手の米国派遣は A A U に申入済である。

エ 豪州水連のフィリップス氏（名誉主事）より、さきに来年1月か2月頃日本、米国より夫々5名あて豪州へ招き日豪米三国親善競技会開催方申越したが、日本の場合学生の試験期の関係もあるが協力したいと返事した。その後水連関係者で検討した結果現在のところ実現の運びとなる模様である。

8) 水球ルール改正の件

F I N A の水球ルールが改正され、本年4月1日より実施する。従来の前、後半2回戦を5分あて4回戦となったから了承されたい。

9) 飛込ルールの改正の件

F I N A の I D C においてルールの一部が改正された。即ち男子高飛込の制限選択飛が従来の11.0が11.2となり、女子高飛込の制限選択飛が3種目が4種目となり、そのほか難易率が若干変更される。

10) 関西支部長の後任の件

高石支部長の会長就任に伴う後任支部長に奈良県体協会長の中山正善氏が就任された。

3. 審議事項（根上専務理事）

1) 競技会要項一部修正の件

オリンピック背泳種目（男子）が200mとなったことに伴い国体の実業団と高校の100m背泳を200m

背泳に変更することについて審議した結果、本部提案どおり承認された。

2) 役員追加の件

過般の全国代議員会で承認洩れとなっていた名誉主事安部輝太郎氏、監事渡辺寛二郎、小山賢之助両氏については異議なく承認される。

理事については、過般の代議員会の席上未定分は追加を願っておいたが、その後新に決定された方を含め別紙に掲載（なお2、3の空席があるが）したから本表により承認方提案したところ異議なく承認された。

3) 財務委員会構成の件

東京オリンピック大会の強化費の一部の募金を願うため別紙の通り奥村氏を会長として財務委員会を結成した。本委員会は水連の一般業務とは関係なく水連強化を目的とした募金を御担当願うだけである～承認～。

4) 昭和36年度選手海外派遣に伴う役員、選手の選考委員会構成の件

本年度は F I S への派遣もあり一応36年度の役員、選手の選考委員会の構成を別案の通りとした。（別紙参照）～承認～。

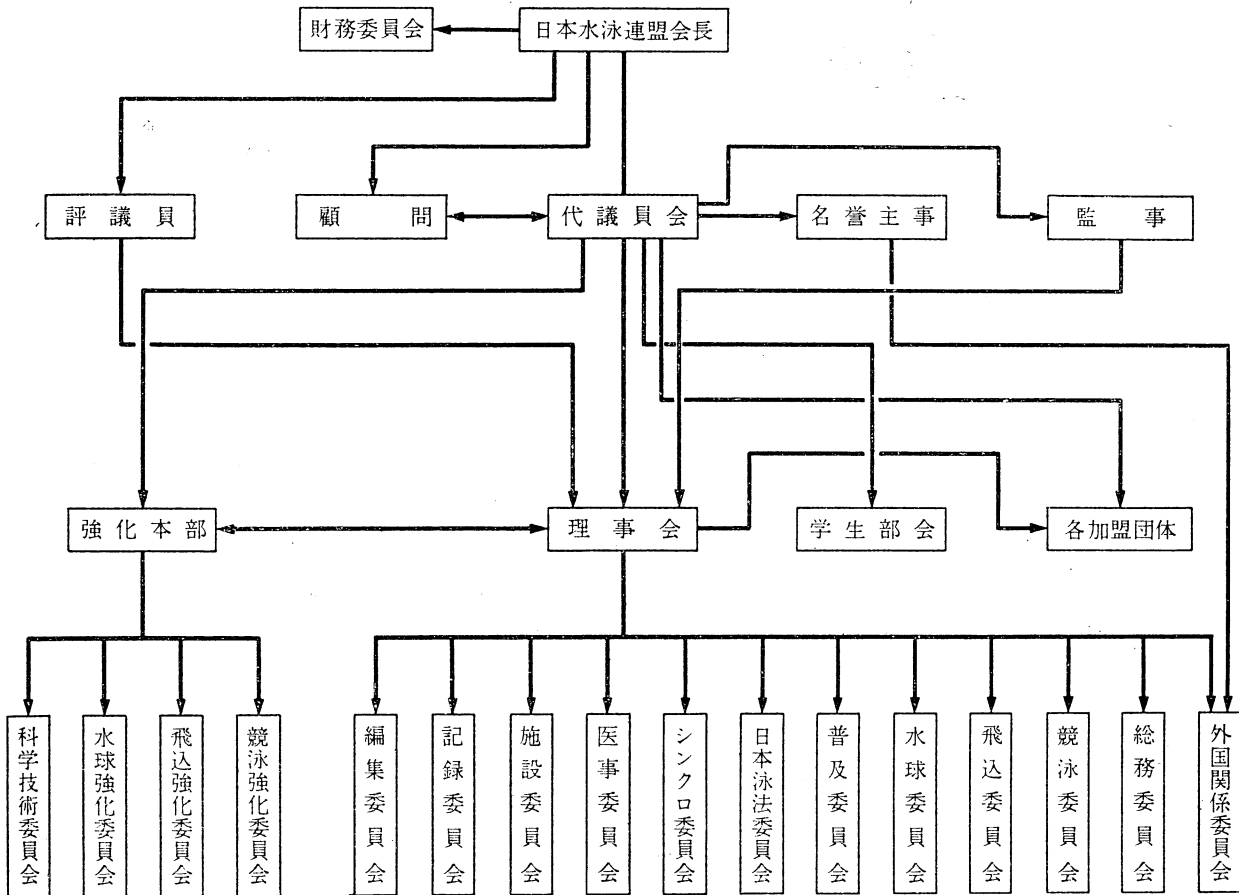
5) その他（根上専務理事）

ア 中学生の制限解除の件 未決定ではあるが、目下文部省当局で検討中の中学生の県外試合禁止に関する制限解除の件は、情報によれば4月中旬に許可される状態にあり事態は好転しつつある。そこで万一許可ということになれば、従来の通信競技、ジュニア指導会、水泳教室等を競技会形式に改めて実施致したいが、代議員会に諮る時間的余裕がないので、競技会要項の一部改正については中体連関係者とは十分に連絡協議の上取計うようにするから本件措置につき常務理事会に一任願いたい旨提案があり、満場異議なく承認す。

イ 高校生の米国派遣の件 本年実施の予定であるが、米国側の承諾が得られ派遣可能の場合は、時期としては8月17日から19日となり、インターハイ不参加も考えられる。そこで派遣選手帰国後参加させたいと考えるので競技会日程の変更につき高体連や主催県と連絡し取計うことを常務理事会に一任願いたい旨提案があった。これに対し高島理事より高校大会が繰下ることを意味するかとの質疑がありその通りの旨の答弁があったが、結局前記の日程変更に伴って派遣選手はインターハイ不出場になる場合があることも常務理事会に一任願う旨改めて提案したところ承認された。

日本水泳連盟組織図

(36-4-1)



本件に関し高石会長より特に

米国派遣は高校生にとり本年度最大のレースとなるが選手強化という意味からは是非実現致したい。そこで多少の犠牲があってもこの際実行に移したいと考えるので、高体連とも十分協議の上取計うから提案通り常務理事会に御一任願いたい旨発言があり了承した。

ウ シンクロ選手の米国派遣の件 (白山委員長)

米国より選手権大会に日本チームの招聘があったが、シンクロの普及発展のためにも是非実現致したい。但し水連の強化対策予算の関係もあるので少数にしほり派遣(4名程度)したいと考えるから資金的な面においても各団体の協力をお願いする旨依頼があった。

4. 会長挨拶

長時間にわたり御審議頂き感謝に堪えない。最後に3点につき出席各位に御願ひ致したい。

1. 今後の水連の方向は、地方の強化を重点的に進める所存である。その意味で中学生の県外試合禁止の件は事情は好転しつつあるが、過日本件に関し根上専務理事と私が全国中体連理事会に出席し水連の実

情を訴へ種々懇談した。その席上九州代表理事より各地で行われる大会に地方水連と中体連との連絡が円滑にいったない向があるとの話が出たが、今後中学校の全国的競技会が実現されるとすれば、中体連の全国的組織と十分連絡をとりたいと考えるから、今後は地方の中体連関係者とは密接な連繫を保持され十分御協力頂きたい。近畿では中学校委員会を結成し、中学生関係競技はすべて当該委員会で運営され一本でなされているので御参考までに申上しておきたい。

2. 最近における水泳の衰びの原因は中学校プールが少く、全体の10何%しかないことにある。文部省からの補助金は僅少ではあるが僅かでも補助を受けるよう努めプール建設に拍車をかけて頂きたい。
3. 強化本部のコーチング、スタッフは年中地方に向き指導することは不可能である。どうしても地方の第一線の先生方、指導者の方々に熱意と情熱をもって指導に当たって頂かなくてはならないので加盟団体におかれてはこれらの先生方に熱意をもち指導して頂けるよう十分バックアップし、協力方切望するものである。

(了)

飛込		毛利元英
〃		川島正之
水球(強化委員長)	○	鶴田武
〃(委員長)	○	名取正也
〃		和田幸一
〃		金子巍
〃		神田明善
〃		近藤静夫
普及(委員長)	○	宮畑虎彦
〃		上野徳太郎
日本泳法(委員長)	○	小林高志
〃		児玉博
〃		米本隆吉
シンクロ(委員長)	○	白山源三郎
医事(〃)	○	鞆田幸徳
施設(〃)	○	深谷俊明
記録(〃)	○	伊丹康夫
編集(〃)	○	栗村中丸
近代五種	○	中野太郎
強化(競泳委員長)	○	田口正治
〃(科学〃)	○	太田光雄
		安永弘
(文部省)		鈴木祐一

強化本部役員 (順不同)

本部長		小池礼三
会計		志村文一郎
本部員	専務理事	根上博
〃	会計理事	伊藤謹平
〃	学生部会長	奥野良
〃	同名譽主事	赤檻卓爾
〃	同名譽会計	古橋広之進
〃	北海道ブロック(委員長)長	尾平太郎
〃	東北〃	〃 瀬川政雄
〃	関東〃	〃 勝村肇
〃	中部〃	〃 加藤茂
〃	近畿〃	〃 奥田精一郎
〃	中国〃	〃 鎌田寿夫
〃	四国〃	〃 鶴田義行
〃	九州〃	〃 高木恒夫
〃	競泳委員長	田口正治
〃	飛込〃	柴原恒雄
〃	水球〃	鷺田武
〃	スポーツ科学〃	太田光雄
〃	学識経験者	松沢一鶴

本部員	学識経験者	宮畑虎彦
〃	〃	藤田明
〃	〃	遊佐正憲

財務委員会 (順不同)

—東京—

会長	奥村 網雄	野村証券株式会社社長
	野村 駿吉	合資会社野村事務所社長
	玉置 明善	千代田化工建設株式会社社長
	岩崎 忠雄	三菱モンサント化成株式会社 常務取締役
	浅井 良任	毎日新聞社常務取締役
	後藤 広一	大洋漁業株式会社常務取締役
	鹿内 信隆	株式会社ニッポン放送専務取締役
	木村 泰雄	住友金属工業株式会社専務取締役
	田坂 政養	いすゞ自動車株式会社常務取締役
幹事	西本 竜三	三菱石油株式会社取締役
〃	友田 信	産業経済新聞東京本社専務取締役

—大阪—

	井狩弥治郎	株式会社大丸副社長
	伊藤 重義	大阪鋼材株式会社社長
	井上 猛	富士火災海上保険株式会社社長
	西山 盤	大阪瓦斯株式会社副社長
	額田 巧	株式会社三和銀行専務取締役
	岡村 正家	日立造船株式会社常務取締役
	吉村 清三	関西電力株式会社副社長
	畠石 義雄	大阪製鋼株式会社社長
	中山 正善	天理教真柱
	野田 孝	株式会社阪急百貨店社長
	浅井 孝二	株式会社住友銀行専務取締役
	四角 誠一	近畿コース販売株式会社会長
	仙石 襄	倉敷レーヨン株式会社副社長

各専門委員会担当事項

外国関係委員会

- FINAとの連絡
- 対外国関係諸事項の連絡

総務委員会

- 競技会の準備運営
- 加盟団体との連絡
- 共催団体との連絡
- 諸規則の研究

競泳委員会

- 泳法の研究及び普及
- 競泳競技会の運営
- 競泳競技審判技術及び器具の研究育成
- 競泳競技規則の研究

飛込委員会

- 飛込の研究と普及
- 飛込競技会の運営
- 飛込競技審判技術及び器具の研究育成
- 飛込競技規則の研究

水球委員会

- 水球の研究と普及
- 水球競技会の運営
- 水球競技審判技術及び器具の研究育成
- 水球競技規則の研究

普及委員会

- 水泳の普及
- 水泳指導者の育成

日本泳法委員会

- 日本泳法に関する事項

シンクロ委員会

- シンクロ競技に関する事項

医事委員会

- 水泳医事に関する事項

施設委員会

- 競技施設の研究
- 競技器具の研究

記録委員会

- 競技会記録の整理
- ベストテンの作成

編集委員会

- 議事録の作成
- 機関誌の発行

昭和36年度選手海外派遣に伴う

選手役員の選考委員会構成

会長	名誉主事	専務理事	会計理事
強化本部長		各強化委員長	
強化本部会計理事		学生部会長	
学生部会名誉主事		学生部会名誉会計	

会長の指名する関係者及び学識経験者若干名を必要に応じてその都度加える。

(31頁より続く)

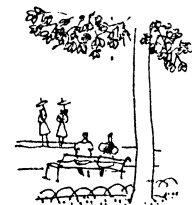
に第2プール(25m6コース)を同一校地内に建設することに決定いたしました。既設の第1プールとこんどの第2プールは、それぞれ両方にその目標を与えました。それは第2プールは幼稚園から大学までの全校5000名の水泳希望者のために解放し、所謂大衆的な、皆泳路線を実現させるためのプールとし、既存の第1プールは、所謂精鋭路線を推進し、第1線級、乃至国際的選手育成の専用プールに使用することに致しました。この皆泳路線と精鋭路線とを併進させることが、学校教育の一環としての教育的見地から見て、最も正しい教育的な運営方針である事を確信いたしております。

幸にして、学園長先生はじめ、各位の御協力を得て、この最も、教育的な水泳指導の物質的条件をつくっていただくことができましたことを私たちコーチングスタッフ

は、心から感謝しております。

いよいよこの施設が完成いたしましたら、層一層の努力を傾注して、各種水泳界前進のために貢献できるような、研究も発表して参りたいと思います。

皆様の御指導御鞭撻を、お願いいたす次第でございます。



日豪懇談会報告

競泳強化委員会

先般、来日した豪州選手を囲んで練習法に就いての懇談会の結果を参考迄に記載致します。

昭和36年4月3日 P.M. 3.00~4.30

於 高輪プリンスホテル

出席者 高石会長、安部、田口、鈴木、南、太田、長沢、長谷、小柳、芦田、橋爪、川田、三枝、平尾、谷、福山、菊池、金田
タイラー監督、ウッド(自)、ウインドル(自)、ディクソン(自)、パーティア(自)、アンドリュー(バタ)

- (1) 豪州選手達は如何なる練習を行っているか特にトップコンディション迄もって行く為には(ディクソン)

練習内容はインターバル、ビート、レグレスを行う。シーズンの始め頃は或る程度長い距離を泳いで泳法の矯正を行う。トップコンディションに達するまでの期間は人々によって異なるが、平均に2カ月位である。長い距離を泳ぐ期間は一週間の者もあるし又、毎週間位泳いでからインターバル練習に入る者もおりまちまちだ。

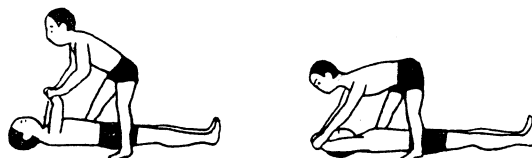
ディクソン、ウインラム、コンラッツ等は遅く相当泳ぎ込まないとトップコンディションにならない。この人達は距離にして約350マイル位、普通シーズン中は一週間に35マイル、人によって45マイル泳いでいる。そして土曜日の午後にタイムを取り日曜日は休む。

当日出席の豪州選手の全員が男女長短の区別なく一週間に泳ぐべき距離をコーチから与えられて忠実に其の距離を泳いでいる。この距離を泳ぐ事が豪州選手の力の根拠である事は疑えない。土、日を除く五日間が与えられる距離を泳ぐ日数だから一日約12,000m程度を欠かさず泳いでいる。殆んどどの選手は其の半分を早朝登校前に泳いで残りの約6,000mを午後の練習で行っている。

- (2) シーズンオフのトレーニングについて
オーストラリアでは選手権終了と共にシーズン終了と

いう考え方でいるので選手権が終了するとすぐに陸上トレーニングを始める所もある。例えばタルボットグループ、ギャスリーグループである。又一ヶ月位たってからトレーニングをやるのがある、然し選手権が終わってから週三回位の割で一ヶ月間は泳ぐ所が多く、それが終わって二ヶ月休み四ヶ月間オフシーズンのトレーニングを行う、その後又一カ月間に3日程度水に入り本格的な練習に入る。

陸上トレーニングの方法としては



上図のようなものを1日に2000回毎日マーシャル選手はやった。

ローズ選手もこの式のものをやったが、コンラッツ選手はウェイトリフティング式のものをやっているが、結果としてはウェイトリフティングそのものもローズの方がコンラッツより強いと云うことです。又腕立などもやります。パーティア、アンドリューなどの女子選手でも1日100回~200回、一度に10回から20回(10×20)ぐらい行う。

又部分的な脚、腰の鍛錬も行う。ウインドル選手などは下の図のような屈伸飛運動と腕立をセットして1日何回かやる。



腕立20回この運動50回の割合で連続に何回か繰り返して行う。屈伸運動が500回と云うのが目標であるから繰り返し回数は10回程度と思う。

では男子、女子との練習の差については女子選手は同じだと答え、男子は違くと答えたがその人によって能力

差があるから一概には云えないが、殆ど差がない様子であった。彼等から学ぶべき点はこの運動をオフシーズン中1日も欠かさず実行する点である。

(3) 試合前の練習について聞いて見たら、各々の選手によって多少異なるが、殆ど平素と変わらない練習のようであった。

◎ディクソン選手は以前には選手権に向って前々日におとすことをやったが現在では落さないと言った。

◎ギヤスリーの場合は平素と同じ。

◎タルボットの場合殆ど落さないが申し訳け程度に1日半前になって落す。

◎ギャラハーの場合一週間前になって一寸加減する程度。

(4) レース前の準備体操とアップはやるか。
殆どやらない。寝けざましに水に飛び込むことはある。準備体操をやらないと言った。

(5) 水泳練習を始める時期(年齢)とレースに参加するのは何時頃か

(ウインドル) 6.7才から水泳練習を始め9才から競技会に参加した。陸上トレーニング9才から10才にかけて本格的な陸上トレーニングを始めた。しかし6.7才では陸上は行わない。

(6) インターバル練習は何時頃から始めるか

人によって異なるが泳ぎ込んで泳ぎのコンディションが整ったら始める。泳ぎが整わないうちはインターバル練習はやらない。そのため本格的練習に入る前、約一カ月間は長めを泳ぐそしてインターバル練習は

インターバル 10秒 50ヤード×32回
又は64回(1マイル又は2マイル)
制限 タイム 34秒
" 60秒 440ヤード×12回
" 50秒 100ヤード×16回
制限 タイム 1分7秒~10秒

シーズン初めのインターバルの単位が1マイルの場合

もある。1マイルを四回泳ぐ様である。従ってインターバルの単位は50ヤードから1マイル迄にわたって行われるが、ウインドル選手はインターバル練習のねらいはペースを覚える為だと云っている。

要するに豪州選手のインターバル練習は量的に極めて多くインターバル練習を行う場合でも一週間の泳ぐ距離は少しも短縮されない。

以上が豪州選手団を囲んで聞いた練習法ですが、要は量的に相当なハードトレーニングをやって、現在の強い豪州の選手が生れたんだと云う点は、かつて我が選手がやって来た事で何等新しい事実ではない。

要するに豪州選手は一流選手になる為にこうした練習をしなければならないと云う信念の下に、コンラッズ其の他が行った練習を忠実に行っているに過ぎない。我々から見ればハードトレーニングであるかも知れないが彼等は一流の選手になるべき道を歩んでいるのであって、ハードであるか、否かは問わないで世界的選手たるべき条件をよく理解して自ら進んでコーチを受け、与えられた練習を忠実に繰り返していると考え。

水泳競技の記録が男女或は種目毎に極めて高度化された今日にあって世界的に活動する選手の練習条件としては、この程度の練習の過程をしのぶ事はやむを得ないであろうと思う。

但し、そこに残される問題はこうした練習に耐えられる強い体力の養成、或はオフシーズンの鍛錬の方法、または栄養補給の点などについては出来るだけ早い機会に結論を得て、こうした練習が豪州選手の如く平易に出来る様にしたいものと考え。

只、茲に特に書き加え度い事は最近インターバル練習によりさえすれば量的に泳ぐ必要はないと云う誤った考え方が一部にある事で、斯く高度に進歩した世界の水泳界に対処する安易に得られる道であろう筈がない。

水泳選手として成功する道は「水に徹する」以外にない事は洋の東西を問わず変らないと豪州選手が示している。



坂 本 宗 隆

豪 州

○ニュー・サウス・ウェールズ州選手権 1/3~21

シドニー 55Y (半塩水)

例年この大会でコンラッツ兄妹その他によって世界新記録が続出し、世界の水泳人の心胆を寒からしめたが、今シーズンはヘイズの220Y バタ世界新記録が唯一つだけ、それにしても3週間に亘る競技会とはのどかなもので、他に例がないだろう。

男 子

110Y自	1.	J・コンラッツ ^⑩	57.6	56.0
	2.	C・スタプレス	58.4	57.7
	3.	F・フェルプス		57.7
220Y自	1.	J・コンラッツ	2:05.3	
	2.	A・ウッド	2:07.7	
	3.	N・ヘイズ	2:09.0	
440Y自	1.	J・コンラッツ	4:38.2	4:27.2
	2.	A・ウッド		4:28.1
	3.	R・ウインドル		4:31.7
880Y自	1.	R・ウインドル ^⑮	9:16.5	
	2.	A・ウッド	9:16.9	
	3.	P・マッカラム	9:40.7	
1650Y自	1.	A・ウッド ^⑰	17:46.1	
	2.	R・ウインドル	18:00.4	
	3.	D・キャヴァナウ	18:51.3	
220Y平	1.	P・クリステイ	2:46.8	
110Yバ	1.	N・ヘイズ ^⑱	1:03.6	
220Yバ	1.	"	2:18.7	2:17.3(Y世新)
	2.	M・テニソズ	2:28.8	
110Y背	1.	J・キャロル ^⑲	1:06.2	
220Y背	1.	J・キャロル	2:29.1	
ジュニア				
110Y自	1.	P・フェルプス ^⑳	58.8	57.6(J新)
220Y自	1.	"	2:06.5	

14才以下

440Y自	1.	R・フェーガン ^㉑		4:48.3
女 子				
110Y自	1.	I・コンラッツ ^㉒ (3連勝)		1:04.4
	2.	H・パーティーア ^㉓		1:05.9
	3.	R・エヴァルス		1:05.9
220Y自	1.	I・コンラッツ		2:17.8
	2.	H・パーティーア		2:19.5
	3.	P・メイス		2:23.5
440Y自	1.	I・コンラッツ		4:49.8
	2.	H・パーティーア		4:53.1
880Y自	1.	D・ホーレー	10:38.8	
	2.	N・ダンカン	10:44.3	
	3.	P・メイス	10:46.3	10:48.6
110Y平	1.	J・ホーガン ^㉔	1:25.3	1:26.0
220Y平	1.	"		3:01.6
110Yバ	1.	J・アンドリュ ^㉕		1:13.8
220Yバ	1.	J・アンドリュ		2:44.7
220Y背	1.	S・コスティン		2:41.5
	2.	K・ブラネズ		2:44.2

○ヴィクトリア州選手権 1/14~21 メルボルン 55Y

110Y自	1.	T・ストラハン ^㉖		56.9
220Y自	1.	"		2:10.0
女110Y背	1.	M・ウイルスン		1:14.4
"110Y背	1.	"		2:40.1

○クインズランド州選手権 1/14~20 ブリスベーン 50m

100m自	1.	J・リグビー ^㉗		58.6
200m自	1.	"		2:07.7
400m自	1.	"		4:30.5
	2.	N・レイノルズ		4:36.5
200m平	1.	W・パートン ^㉘		2:44.6
200mバ	1.	D・ジェラード ^㉙ (新西)		2:27.4
200m背	1.	A・フィングルトン ^㉚		2:26.7
	2.	B・ロバートソン (新西)		2:28.0
女400m自	1.	J・ペイン ^㉛		5:04.3
"800m自	1.	"		10:29.7
	2.	S・ニコルスン (新西)		10:40.2

○全豪選手権 2/18~25 ブリスベーン 50m

男 子

100m自	1.	D・ディクソン ^㉜	57.0	56.2
	2.	T・ストラハン	55.9	56.5
	3.	J・コンラッツ	57.9	56.6
200m自	1.	"	2:05.5	2:04.5
	2.	D・ディクソン		2:04.7
	3.	A・ウッド		2:05.8
400m自	1.	J・コンラッツ	4:26.4	4:25.1

	2.	A・ウッド	4:25.1	
	3.	R・ウインドル	4:28.4	
800m自	1.	A・ウッド	9:16.8	
	2.	R・ウインドル	9:19.1	
	3.	J・リグビー	9:35.7	
1500m自	1.	R・ウインドル	17:37.7	
	2.	A・ウッド	17:37.7	
	3.	L・ヒグスン	18:39.9	
100m平	1.	W・バートン	1:14.3	
200m平	1.	〃	2:42.6	
	2.	A・ハンフリーズ	2:45.0	
100mバ	1.	N・ヘイズ	1:01.6(豪新)	
	2.	K・ペリー	1:01.7	
200mバ	1.	N・ヘイズ	2:14.7	
	2.	K・ペリー	2:18.6	
	3.	M・テニソング	2:27.4	
100m背	1.	A・フィングルトン	1:05.4	
	2.	J・フィングルトン	1:07.5	
200m背	1.	J・キャロル	2:24.9	
	2.	A・フィングルトン	2:26.5	
400m個混1.	W・バートン	5:29.0		
430m混継1.	クインスランド州	4:20.0		
ジュニア				
400m自	1.	R・ウインドル	4:28.4	
	2.	P・フェルプス	4:28.8	
女子				
100m自	1.	D・フレイザー	1:01.2	1:01.0
	2.	I・コンラッツ		1:05.2
	3.	H・パーティアー		1:05.8
200m自	1.	D・フレイザー		2:15.5
	2.	I・コンラッツ		2:19.0
	3.	H・パーティアー		2:21.1
400m自	1.	D・フレイザー		4:49.7
	2.	H・パーティアー		4:56.5
	3.	I・コンラッツ		4:56.7
800m自	1.	J・ペイン		10:29.8
	2.	H・パーティアー		10:32.9
	3.	R・エヴァルス		10:36.6
100m平	1.	J・ホーガン		1:25.2
200m平		〃		3:02.1
100mバ	1.	J・アンドリュ		1:10.7
	2.	I・コンラッツ		1:14.5
200mバ	1.	I・アンドリュ		2:40.5
100m背	1.	S・コスティン		1:13.2
	2.	K・ブラネズ		1:14.4
200m背	1.	M・ウイルスン		2:39.6

	2.	S・コスティン	2:39.6
400m個混1.	L・マギル	5:59.1	
400m継	1.	N. S. W.	5:23.2
南豪チームの第1泳者フレイザーは 1:00.8			
ジュニア			

100m自	1.	J・ターナー	1:05.2
200m自	1.	D・ダーロー ^⑬	2:23.2
	2.	J・ターナー	2:24.4
100m平	1.	L・マギル	1:24.9

この大会において、世界新記録が一つもないということは数年来ないことである。世界の第1級選手であった多数のベテランの引退した今シーズンはティーン・エイジャーばかりであり、ストラハンその他の新顔も現われたが、上り坂であるべきこれらの選手中、昨年よりも伸長しているものが数名に過ぎないのは意外である。

南 米

○アルゼンチン 1/中旬

100mバ	1.	L・ニコラオ ^⑭	59.6(南米新)
60.0を割ったのはラースン(米)に次いで史上2番目の選手			

○ブラジル選手権 2/下旬 リオデジャネイロ 50m

100m自	1.	M・ドスサントス	56.8
800m自	1.	N・オオハタ	9:39.3(南米新)

~~~~~  
100mバタフライの史上10傑を参考までに

|     |                 |               |    |        |    |      |
|-----|-----------------|---------------|----|--------|----|------|
| 1.  | L. Larson       | (米)           | 19 | 58.7   | 60 | (世記) |
| 2.  | L.A. Nicolao    | (垂)           | 16 | 59.6   | 61 |      |
| 3.  | 石本 隆            | (日)           | 23 | 1:00.1 | 58 | (世記) |
| 4.  | M.F. Troy       | (米)           | 19 | 1:00.2 | 60 |      |
| 5.  | Tseng Chi-wen   | (曾紀文)<br>(中共) |    | 1:00.2 | 60 |      |
| 6.  | J.D. Gillanders | (米)           |    | 1:00.6 | 60 |      |
| 7.  | R. Bennett      | (〃)           | 16 | 1:00.6 | 60 |      |
| 8.  | P.T. Jecko      | (〃)           | 23 | 1:01.2 | 60 |      |
| 9.  | 増永文昭            | (日)           | 19 | 1:01.3 | 58 |      |
| 10. | 開田幸一            | (〃)           | 21 | 1:01.4 | 59 |      |

~~~~~  
ヘルムス杯の受賞者

さきに古橋(1949), 古川(1956), 石本(1957)の3選手が受賞して広く知られているヘルムス杯(米)の1960年度の受賞者が発表された。水泳関係では南米地域からブラジルの Manoel Dos Santos が選ばれた。彼はご存じの通りローマ・オリンピックにおける100m自由形の3位入賞者である。

これは、世界をアジア、北アメリカ、南アメリカ、ヨーロッパ、アフリカおよび豪州の6地域に区分し、あらゆるスポーツを通じて、最も優秀な選手を各地域1名ずつ毎年選抜して表彰するものである。

× ×

前号に掲載した“1960年度世界ランキング”に関して、その後入手した情報およびミスプリントもあるので、次のように訂正します。従って“記録からみた1960年度の世界水泳界”中の各表の数字にも多少の変動があります。御諒承願います。

男子

100m自	21	J・コチョミュア (ユーゴ)	◎	56.2S
200m自	12	L・ラーソン (米)	○	2:04.4
800m自	16	F・ヴィーガント (東ド)	◎	9:36.4
	17	J・パッハマン (ノ)	○	9:36.5
1500m自	11	G・ハリスン (米)	○	18:01.0
	16	V・ログシツェ (ユーゴ)	◎	18:09.8S
100m平	3	G・ティテス (東ド)		1:12.0
	7	V・スボシル (チェコ)		1:12.3
	9	A・クロボトウスキー (波)	◎	1:12.6
	19	W・メッスナー (東ド)	○	1:13.6
100mバ	3	曾紀文 (中共)	◎	1:00.2
100m背	8	J・チカニー (洪)	◎	1:03.2

9	G・サイクス (英)	◎	1:03.3
17	S.O・グレンナー (芬)	◎	1:03.8

女子

100m自	16	J・トルースト (和)	○	1:04.2
	20	C・ステフィン (東ド)	◎	1:04.3
400m自	12	M・ヘームスケルク (和)	○	4:49.5
	13	C・シムメル (ノ)	○	4:49.7
800m自	6	H・シンマーマン (東ド)	◎	10:40.2
1500m自	4	M・ヘームスケルク (和)	○	19:54.8
	5	コスト (ノ)	○	19:58.7
100m平	4	K・バイエル (東ド)		1:21.0
	5	R・ラッシュグ (豪)	◎	1:21.2
	8	B・ヴァルター (東ド)		1:21.6
	10	B・ゲベル (ノ)		1:21.9
200m平		高松好子 (日)	◎	2:50.3
		高松好子 (日)		2:53.6
200mバ	6	J・アンドリュ (豪)	○	×2:42.7
100m背		I・シュミット (東ド)		1:11.0
400m個混	9	R・シューベルト (ノ)	◎	5:56.0

編集後記

一部原稿未着等のため発刊が遅れお詫びします。地区強化組織委員会関係の未掲載分は次号に譲りたいと思いますので御了承下さい。水連本部も高石新会長以下強力なスタッフを得てスタートしたことは、まことに喜ばしいことである。願わくば東京オリンピックのため折角御健闘を祈ってやまない。

強化対策本部から本年度の計画も発表されたことに伴い地方第一線の方々は選手づくりに御多忙の日が続くことと思いますが、各加盟国体関係者、指導者各位におかれて選手づくりの苦心談やその他建設的御意見がありましたらどしどし御寄稿下さいますようお願いいたします。

(栗村)

編集委員

(いろは順 ◎印委員長) 金田平八郎, 上野徳太郎, ◎栗村 中丸, 坂本亮四郎, 三枝美貴子, 佐藤 幸男, 菊池 章, 島田桃一郎, 島田 博史, 鈴木 祐一

日本水泳連盟 機関誌	昭和36年5月10日印刷 昭和36年5月15日発行	東京都千代田区丸ノ内2-2 丸ビル722区
水 泳	日本水泳連盟 編集兼発行人 栗村 中丸 印刷所 株式会社 成島印刷所 東京都中央区日本橋本石町3の4 電話 日本橋(241)1701.6509.7082	発行並申込所 日本水泳連盟 電話和田倉(201)3090・4885番 振替口座東京5178番
第139号		